

年報

—平成15年度—

2004

大磯町郷土資料館

目次

[事業報告]	
庶務	2
・組織及び職員	
・運営委員会	
・予算	
・維持管理	
・入館者	
学芸	4
・企画展	
・学級／講座	
・刊行物	
・調査／研究／普及	
・博物館実習	
・博物館資料の収集と利用	
文化財	24
・文化財専門委員会	
・文化財の調査	
・文化財の保護啓発	
・埋蔵文化財	
[研究報告]	
資料館と事業評価・人事評価	
佐川和裕	28
草と木の調査「城山公園の植物」の活動報告	
北水慶一	30

事業報告

庶務

■組織および職員

教育長	教育次長	郷土資料館	(郷土資料班)
渡邊修司	今井 正	館長 武藤清治	副主幹/学芸員 佐川和裕 主 査/学芸員 國見 徹 主任主事/学芸員 北水慶一 臨時職員 加藤廣美 臨時職員 畠山恵子 臨時職員 渡邊恵子 臨時職員 遠藤 仁

■運営委員会

<委員の構成>

- ・委員 長/石田和夫 (学識経験者)
- ・副委員長/廣瀬利郎 (社会教育委員)
- ・委 員/稲葉和也 (文化財専門委員)
近藤英夫 (町史編さん委員)
河合剛英 (学校長)

<委員会の開催>

- ・第1回/平成15年7月31日 祝日開館について(諮問)、平成14年度年報(案)、平成15年度事業計画並びに進捗状況
- ・第2回/平成15年10月8日 祝日開館について(答申)、平成15年度事業の進捗状況、平成15年度地域伝統芸術等保存事業による成果品の試写

■予算

<当初予算の推移>

単位：円

年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
金額	57,439,000	57,666,000	69,757,000	62,801,000	61,638,000	60,940,000

□郷土資料館費 60,940,000円 □文化財関係費 16,142,000円 ■計 77,082,000円

<平成15年度決算>

単位：円

事業	運営委員会	運営事務	維持管理	学芸活動	企画展	教育普及
金額	58,360	2,116,411	14,671,677	2,024,259	592,173	79,185
事業	文化財専門委員会	文化財調査保存	映像システム改修	収蔵スペース整備	緊急地域雇用創出特別対策	計
金額	130,100	9,803,798	1,732,500	819,000	7,560,000	39,587,463

□職員給与(4人分) 36,724,226円 ■歳出合計 76,311,689円

■維持管理

<委託業務>

- ・清掃委託/ (株) リンレイサービス神奈川支店
- ・空調設備給水設備保守委託/高砂熱学工業(株) 横浜支店
- ・消防用設備保守委託/ (株) ヒラボウ

- ・昇降機保守委託／ダイコー（株）横浜営業所
- ・自動ドア保守委託／（株）神奈川ナブコ 厚木支店
- ・自家用電気工作物保守委託／小島電気管理事務所
- ・浄化槽維持管理委託／湘南興業（有）
- ・警備委託／（株）全日警 横浜支社
- ・敷地管理委託／（財）神奈川県公園協会
- ・動物剥製委託／（有）尼ヶ崎科学標本社

<施設の修繕>

- ・中庭犬走り沈下箇所他補修／西松建設（株）横浜支店
- ・モニターテレビ交換設置／（株）望月電気工事
- ・誘導灯バッテリー、火災報知器受信機用バッテリー交換／（株）ヒラボウ
- ・PAS 交換工事／（株）石田電業社
- ・収納棚設置／神奈川ファイリング（株）

■入館者

<入館者の推移>

単位：人、日

	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	累計 (昭和 63 年～)
入館者数	28,252	25,395	32,886	30,835	28,497	530,968
1 日平均／開館日数	101／279	91／277	117／281	112／274	100／285	121 /4,384

<月別入館者数>

単位：人

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
入館者数	2,419	2,636	1,906	2,041	1,668	1,623	3,190	3,889	1,720	1,461	2,416	3,528	28,497
1 日平均	100	105	79	81	64	73	127	162	81	69	105	141	100

<見学・視察>

館対応分のみ、単位：団体

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件数	—	—	6	2	—	2	4	4	2	1	1	1	23

<学校利用>

単位：団体

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
幼稚園	—	—	2	—	—	1	—	—	—	—	—	—	3
小学校	—	—	—	—	—	—	4	3	—	—	—	—	7
中学校	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1
その他	—	—	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	3
合計	—	—	3	—	—	1	4	4	2	—	—	—	14

<研修室の利用>

単位：団体

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件数	16	17	11	16	10	11	9	11	11	8	14	11	145

■企画展

第2回漂着物展<前期展示> 「漂着物の物語り」

期 間 平成15年6月7日(土)～7月20日(日)

開場日数 37日間

会 場 企画展示室

資料点数 約3,000点

料 金 無料

入場者数 3,077人

(趣旨) 海岸に打ち寄せられた漂着物を通して、海、川、山、生き物、私たちの暮らし、環境などを考えるもので、平成13年度に開催した漂着物展に続いて2回目の展示となる。

今回は、特徴ある漂着物にスポットをあて、9つの小テーマを設けて漂着物を取り巻くさまざまな物語りを展開する。

(内容) 9つの小テーマによって展示を構成した。

- ①<シンボル展示ーある日の浜ー>展示室中央に、花水川河口から大磯港までの浜に漂着した生活ゴミの山を築いた。スチール缶、ペットボトル、発砲スチロール容器、ライター、傘、帽子、ボール、釣り針、ウキ、バケツ、ビニール袋、看板、電球、携帯電話、ひげ剃り、消火器など、ありとあらゆるものが流れ着く浜の現状を見てもらうことをねらいとした。
- ②<大磯の海Ⅰー記憶の中の海ー>今や記憶の彼方に追いやられてしまった、かつての海と浜の様子を古写真で振り返った。
- ③<アカウミガメー産卵の記録ー>平成14年8月に大磯で12年ぶりに産卵が確認されたアカウミガメについての記録を紹介した。
- ④<ミズウオとヨロイザメー深海からの漂着ー>深海性魚類のミズウオとヨロイザメが、いずれも大磯町の北浜海岸に漂着した。その経緯とともに剥製を展示した。
- ⑤<タイマイとハシボソミズナギドリー南方からの漂着ー>南方からの漂着物にまつわる、悲しい現実と知られざるドラマを紹介した。
- ⑥<アシカー北方からの漂着ー>最近、何かと話題にのぼる「タマちゃん」。かつて、相模湾にも「タマちゃん」はやってきた。漁師さんの間では、アシカが相模湾の漁場に姿を見せた話が伝えられている。
- ⑦<陶磁器ーくらしの検証ー>一片の陶磁器から、昔のくらしを垣間見ることができる。陶磁器片の破片と同様のものを当館所蔵の民具のなかからみつけた。
- ⑧<盆馬ー祖先を送るー>お盆の行事では、海は先祖を送る場所でもあった。先祖の住む世界を、海の彼方にあると考えた人々の思いを探った。
- ⑨<大磯の海Ⅱー海の中をのぞいてみようー>大磯の海中写真を展示した。

ところで、漂着物展の場合、展示を構成するにあたって、主に記録性を重視するのか、あるいは、独自のテーマを中心に据えるのかによって、大きく内容が左右される。当館では、必ずしも定期的な調査を行なっているわけではないため記録性重視の展示には十分堪えられない。その一方で、独自のテーマを設定して構成していくにしても、新たな視点が見つかることができない場合には、いずれマンネリ化してしまう恐れもある。今後、漂着物展というタイトルで展示を企画する場合、どのような視座に立つのかということは大きな課題といえよう。

(担当) 佐川、北水

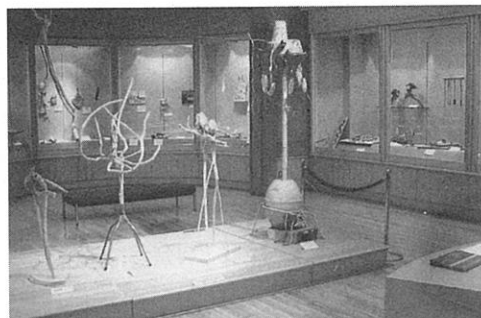


第2回漂着物展<後期展示> 「私のお宝/ビーチコーミング・アート」公募展

期 間 平成15年7月26日(土)～9月7日(日)

開場日数 36日間
会場 企画展示室
出品点数 約200点
料金 無料
入場者数 2,470人

(趣旨) 平成13年度に開催した漂着物展(第1回)では、当館の主催しているワークショップ「海の教室」の参加者を中心に、漂着物を利用した作品を募集して展示した。その結果、自然物だけでなく、生活ゴミなども利用した作品が数多く寄せられ、環境学習の面でもたいへん有意義であると感じた。そこで、今回は「海の教室」参加者のみならず一般にも門戸を広げ、募集する。特に今回は漂着物に関わりを持つものであれば良く、漂着物を利用した作品だけでなく漂着物そのものでも募集対象とする。したがって、タイトルを『「私のお宝/ビーチコーミングアート」公募展』とした。



(内容) 幼稚園児から80歳代に至るまで、さまざまな世代からお宝や作品が寄せられた。出品者は59名、出品点数は約200点に及んだ。その多くは漂着物を利用したオリジナルな作品であり、今回は比較的大きな作品も寄せられた。大型の作品群は、中央の昇降展示台に展示した。また、まきば幼稚園からは全園児の作品が寄せられ、瑞々しい感性に支えられた多くの作品が目をつけた。

結果的には、応募人数ならびに展示点数は適度な数となり、まとまりのある展示を構成することができたと考えているが、募集方法の内容について課題が若干残った。お宝や作品の規格である。基本的には1人1点を原則としたが、作品によってはたいへん小さなものであるために数点まとめて展示した方が有効であったり、複数でひとつの作品としてイメージしている場合もあった。そこで、実際に応募者の意図を聞いたり実物を確かめることで、各々の状況と全体を把握しながら対処することにした。今回は応募者の中から不公平感を訴える声は聞かれなかったが、今後このような企画をたてる場合には注意したい問題である。

(担当) 佐川

開館15周年記念展「考古資料展」

期間 平15年10月18日(土)～12月21日(日)
開場日数 53日間
会場 企画展示室
出品点数 約100点
料金 無料
入場者数 7,163人

(趣旨) 本展示は当館開館15周年の記念展示として位置づけている。大磯町域には幅広い時代にわたり数多くの遺跡が存在しており、古くは明治期から考古学的調査が行なわれている。永年にわたる発掘調査をはじめとする考古学的調査により多くの考古資料の蓄積がなされてきている。考古資料の一部は常設展示において公開しているが、未公開の資料また、資料の特性上長期間の展示に耐えられない資料等が多く存在している。今回の展示における目的は大きく二つ挙げられる。まず第一は平生目に触れない資料の公開という点である。もう一つの目的は、一般の目に触れることの余り無い調査時の状況を写真によって紹介することである。発掘調査中においては種々の制約から現地説明会等を開催することが困難な場合が多い為の代替的措置であるとも言える。展示資料については開館15周年記念ということで過去15年の間に行なわれた調査の中から資料を選定した。



(内容) 今回の展示では縄文時代から近代に至る考古資料と共に発掘等の調査時の写真パネルによ

って展示を構成した。また大磯という地に特徴的と言える近代の考古資料に関して、比較参考資料として他地域での発掘調査等による考古資料の情報を併せて展示した。

展示構成は概ね時代順とし、古い時代から新しい時代への動線となるようにした。大磯町域には明確な旧石器時代の資料が確認されていないため、時代は縄文時代からとなる。縄文時代の区画では資料数の多い縄文時代後期の調査地点の紹介を行なった。当該遺跡からは食用に供した残滓と考えられる動物遺体が数多く出土している。動物の骨格図などと対比して、往時の「食」を題材とした構成とした。

弥生時代の区画では、弥生時代中期後半宮ノ台期の被火災住居の良好な一括資料を扱った。今回取り扱った地点においては大型の被火災住居から多量の土器の他、炭化米をはじめとした多様な遺物が出土している。被火災住居という題材から、生業を含めた生活の再現を目論むと共に、弥生土器を「器」として視覚的に捉えてもらうことを意識した展示手法とした。土器の実物と共に、通常展示には供さない遺物実測図をパネル化して展示資料とする試みも行なった。

古墳時代の資料は2群の横穴墓群の調査成果を基とした。遺物としては保存処理に伴うクリーニングにより往事の輝きを取戻した杏葉等の金銅製品の公開が主眼となった。馬具については単体では使用方法が判り難いため、装着例を模式図としたパネルを配することとした。また線刻画を有する横穴墓群については、新たな試みとして、実測図のパネルとともにシリコンゴムによる剥取標本の実物を展示することとした。標本が一体何物であるかが判り難いという危惧は有ったが、予想よりは展示資料として耐えられるという結論を得た。

平安時代については相模国府関連と考えられる遺跡の資料を扱った。祭祀関連と考えられる一括資料を中心として、国府関連に特徴的であると考えられる遺物の紹介を行なった。

近代の考古学研究は未だ萌芽期に有ると言えるが、近代に大きな画期を迎える大磯という土地においては注視すべき資料が多く看取されるため、今回の展示の中核となっている。現在まで蓄積された陶磁器・煉瓦等の物質資料を紹介するとともに、比較資料として東京都汐留遺跡、横須賀市猿島遺跡群の発掘調査による出土資料を展示した。また中央の昇降床部分には象徴展示の意味も含めて、組合せ状態で採集した赤煉瓦塼の部分を配した。

展示全体を通して、個々の遺物を資料として捉えるという面と、体感的展示空間の中の1個のモノとして捉えるという二つの面を意識して展示を構成した。

(担当) 國見

「布と着物—縫う・着る・装う・繕う・楽しむ」

期 間 平成16年2月24日(火)～4月11日(日)

開場日数 40日間

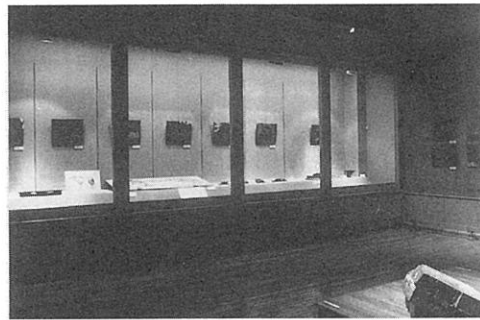
会 場 企画展示室、休憩室、廻廊、展示ホール、エントランスホール

出品点数 約500点

料 金 無料

入場者数 5,395人

(趣旨) 当館では、布や衣類に関わる資料が数多く収集されている。毎日着ていた普段着、汗のしみついた仕事着、お気に入りの外出着、思い出深い祝着、捨てずにとっておいたハギレなど、提供者のご理解なくして博物館資料になることはありえなかった。そのご厚意に応えたいとの思いから、平成11年度に衣類整理の協力者を募り、ワークショップ「民俗に親しむ会」を立ち上げた。地道な活動は現在に



至るまで続き、これまでに2,000点余りの衣類を整理し、さらに大量のハギレを布見本としてカード化する作業をおこなった。今回の企画展は、ワークショップの5年間にわたる作業の成果であり、参加者と資料館との協働作業として実施する。

(内容) 布や着物は見るだけでは物足りない。擦り切れて薄くなった部分や、確かな運針のあとを手で触り、布を裏返して見なければ本当のことが見えてこない。特に、布や着物に興味を抱いている方々にとっては、その思いがより強いに違いない。今回の展示では、布や着物に興味を持っている方はもちろん、初めて布や着物に接する人にとっても、布を実感していただくことを大きな目的とした。そこで、常設展示室を除き、展示可能なスペースをすべて使い、手にとってじっくり布と語り合っていただけのような構成を心掛け、一人でも多くの方に「感じて」いただきたい展示を目指した。

まず、エントランスホールには、さまざまな繕いが施された比較的大きな布を展示した。タイトルにある布を象徴的に表す、いわばシンボル展示である。続く展示ホールには、針箱、くけ台、型紙、布見本、張り板、伸子張りなど、縫ったり繕いをするための道具を展示した。さらに、タイトルの副題にある、

「縫う」「着る」「装う」「繕う」「楽しむ」といった小テーマを象徴的に表す布や着物を展示した。これは、このような視点をもって展示をみてほしいという、展示全体のガイダンス的な位置付けとしたものである。さらに奥に続く廻廊には「印半纏をかき分けて進む」イメージで、天井から中央部分に印半纏



を連続的に吊るした。また、ボロボロになった布片を展示するとともに、あわせて雑巾、ハタキ、箕、ショイバシゴ、ショイカゴ、裁縫用の枠、オシメなど、布の再利用したもの集成し、いずれも手で触れるように展示した。また、オコシやフンドシなどの下着類も展示した。廻廊の突き当たりにある休憩室には、農業と漁業に関わる仕事着をまとめた。また、漁業における晴れ着であるマイワイを壁一面に吊

るし、藍を中心とした仕事着や普段着との対称的な色合いを強調した。企画展示室では、天井から吊るした無数の前掛けや手拭いが入室者を圧倒する。中央の展示台には、ワークショップで作成した布見本

(資料カード)を広げ、自由に布を検索できるように設置した。また、ガラス展示ケース内には、主に「装い」を視点に据えた衣類を展示した。祝儀・不祝儀にかかわる晴れ着、さまざまな工夫を施した長襦袢や合着、あるいは火消しの刺子半纏や羽織の裏地のおしゃれや「粋」の観念などを紹介した。壁面の露出展示では、子どもを含めた普段着の数々を展示した。全体には、500点を越える資料数によって



数の多さで圧倒させることと、その多くが手で触ることができる点が特徴といえる。したがって、小さな博物館にあって、精一杯の展示スペースを利用し、精一杯の資料数を展示したことになり、博物館の規模からこじんまりとした展示をイメージしてきた来館者にとっては、ある意味では期待を裏切った内容であったようだ。

しかし、資料を後世に残すための保存を大きな役割としている博物館施設にあっては、自由に触れることができるという展示は、大きなリスクを負うことになる。ある程度予想していたことではあるが、やはりアンケートの記載には手で触れることができたことに対して共感する内容は圧倒的に多かったが、一方で資料保存という視点を持ちあわせている人にとっては疑問を抱いたことも確かなようだ。ただ、いずれにしても、展示というものについてあらためて問い直す契機となったことには違いない。

本展示では、メンバーの方々にとっても、事務局の担当者としても、結果として一定の満足感を得ることができたと考えている。もちろんさまざまな課題を再認識する必要があるだろうが、今後もワークショップによって蓄積された情報を基に、布や着物の展示を企画していきたい、あるいは企画していく

べきだとの思いを新たにした。

なお、期間中に展示室に設置しておいたアンケート用紙は、最終的に 187 枚回収することができた。アンケートには回答者の住所、来館回数、年齢、性別と、展示の感想や意見を自由に記載していただく欄を設けている。ここでは展示の感想や意見内容を詳しく紹介するだけの紙幅はないため、基本的事項の集計のみを記しておく。

(単位：枚)。

<住所の地域別>

・大磯町内 (68)	・平塚市 (36)	・二宮町 (13)	・小田原市 (10)	・横浜市 (10)
・横須賀市 (8)	・鎌倉市 (6)	・伊勢原市 (4)	・藤沢市 (4)	・茅ヶ崎市 (3)
・真鶴町 (3)	・寒川町 (2)	・綾瀬市 (2)	・秦野市 (1)	・厚木市 (1)
・中井町 (1)	・開成町 (1)	・南足柄市 (1)	・箱根町 (1)	・東京都 (6)
・埼玉県 (1)	・不 明 (5)			

<来館回数>

・初めて (83) ・2回以上 (101) ・不明 (3)

<年齢別>

・1～9歳 (18) ・10～19歳 (12) ・20～29歳 (8) ・30～39歳 (10) ・40～49歳 (2)
・50～59歳 (34) ・60～69歳 (47) ・70～79歳 (17) ・80～89歳 (3) ・90～99歳 (1)
・不明 (35)

(民俗に親しむ会参加者) 鶴飼レイ子、北谷澄子、中村知子、西山縫子、新見由美子、平田浩子、藤田輝子、渡辺富子、渡辺京子、佐々木佳子、青木ひさ子

(担当) 佐川

■学級・講座

<民俗に親しむ会>

日 時 平成15年4月8日(火)・9日(水)・10日(木)・26日(土)、5月24日(土)、
6月28日(土)、7月26日(土)、9月13日(土)、10月11日(土)、11月29日(土)、
12月13日(土)、
平成16年1月15日(木)・16日(金)・17日(土)・22日(木)、2月2日(月)・17日(火)・
18日(水)・20日(金)・23日(月)・25日(水)・26日(木)・28日(土)・29日(日)、
3月6日(土)・7日(日)・13日(土)・14日(日)・21日(日)・28日(日)・30日(火)

場 所 当館研修室、企画展示室

参加者 延113人

(内容) 平成11年度から継続している講座で、資料館の民俗資料整理を通して、地域の文化伝承に関わりを持つとともに、地域の方々がお持ちの情報や知識を提供していただくことによって、資料を活き返らせ、さまざまな活用の可能性を広げることを目的とする。

活動内容は、平成11年度より引き続いて衣類資料の整理を行ったが、15年度は、活動の成果を多くの方々へ還元するために、企画展を行うことを念頭においた活動を展開した。企画展の企画、準備をはじめ、ギャラリートークについても「民俗に親しむ会」のメンバーが積極的に関与し進められた。

なお、資料館と参加者との情報の共有や、コミュニケーションを図るために「民俗に親しむ会通信」No.45～54を発行した。

(担当) 佐川



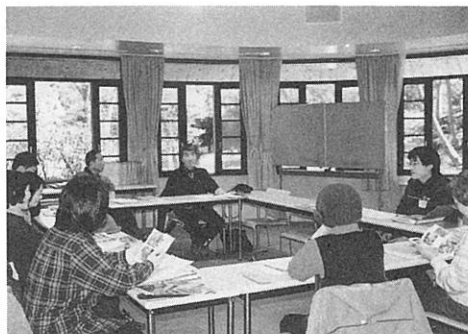
<草と木の調査>

日 時 平成 15 年 4 月 12 日 (土)・26 日 (土)、5 月 24 日 (土)、6 月 14 日 (土)・28 日 (土)、
7 月 12 日 (土)・26 日 (土)、8 月 9 日 (土)・23 日 (土)、9 月 27 日 (土)、10 月 11 日 (土)、
11 月 8 日 (土)・22 日 (土)、12 月 13 日 (土)、
平成 16 年 1 月 24 日 (土)、2 月 7 日 (土)・28 日 (土)、3 月 13 日 (土)・27 日 (土)

場 所 当館研修室、町内

参加者 延 173 人

(内容) 本講座では、平成 13 年度より県立大磯城山公園の花ごよみ調査を実施している。13、14 年度の講座では、年 20 回の予定を組み、毎回、花ごよみ調査を続けた。2 年間の調査で、園内の植物については詳細な目録化が進んだが、反面、新たな展開が求められていると感じることが多くなった。また、マンネリ化による参加人数の減少が見られるようになったこともあり、本年度は第 2 土曜日はシダ植物、ドングリ、特定樹木等の各種調査、第 4 土曜日は引き続き城山公園の花ごよみ調査を実施した。



花ごよみ調査は、月 2 回ペースのデータ収集から月 1 回ペースとなり、粗雑になった感はあるが、参加者がより自然に親しめる(楽しめる)内容へと転換させたことは今現在、講座の展開を再考するうえで良い方向に進めたのではと考えている。新たに各種講座を付加させたことで、花ごよみ調査だけを進めてきた頃は、植物同様に一生懸命になり、意外に城山公園の全体の自然を見ていなかったことに気づかされる一面もあった。

年度末に、今後の活動と調査のまとめ方(成果品の作成)について論議する機会を設けたが、参加者一人一人が本講座に対する真摯な考えを述べられ、貴重な意見を多数いただくことができた。次年度以降も調査を継続するとともに有意義な調査報告となるように引き続きまとめ方について検討していきたい。

(担当) 北水

<海の教室>

日 時 ①平成 15 年 6 月 12 日(木) ②10 月 25 日(土) ③12 月 21 日(日)
④平成 16 年 3 月 6 日(土)

場 所 大磯町内、郷土資料館研修室

参加者 延 132 人

(内容) 平成 12 年度から開始している講座で、地域博物館の可能性を求め、分野にこだわらずに生の地域資料を利用しながら新しい学問領域の提示を念頭におくことを目的としている。「海」をメインテーマに、長いスパンで継年的に取り組む。海を知るためには海ばかりをみていたのでは十分でないことを認識しながら、海という素材に対して可能な限りさまざまな視点からアプローチしようという試みである。本年度はアカウミガメの放流会を 1 回、ビーチコーミングを 2 回、漂着物を使ったキャンドルづくりを 1 回実施した。年間の日程と内容は次のとおり。

- ① 大磯産アカウミガメの放流会(場所/大磯町立小磯幼稚園～幼稚園下海岸、参加者/100 人)
- ② ビーチコーミング(場所/大磯照ヶ崎海岸～北浜海岸、参加者/10 人)
- ③ 漂着物を使ったキャンドルづくり(場所/郷土資料館研修室、参加者/20 人)
講師/美甘麻里子氏
- ④ ビーチコーミング(場所/大磯照ヶ崎海岸～北浜海岸、参加者/2 人)

アカウミガメの放流会は、平成 14 年 8 月に大磯町西小磯の海岸で産卵し、その後江ノ島水族館のご協力をいただいて保護し、孵化したアカウミガメを、西小磯の海岸から海に戻そうというもので、当日は 100 名の一般参加者とともに、多くの報道陣が詰めかけた。まず最初に、小磯幼稚園ホールにてアカ

ウミガメの産卵と保護について、当館学芸員が経過報告を行ない、続いて江ノ島水族館の神応飼育技術課長から、アカウミガメの生態や飼育などの話をスライドを交えながらしていただいた。その後、幼稚園下の海岸に移動し、小磯幼稚園児の手によりアカウミガメを放流した。当日は波が高く、海の状態は良くなかったが、事故もなく無事に放流することができた。しかし、予想を超える報道陣の数に、現場が混乱する場面もあった。今後は、参加者の安全を確保するためには、状況に応じて規制をかけるなど、報道のあり方と対処方法について検討する必要があると感じた。



また、キャンドルづくりは、貝、ビーチグラス、流木などの漂着物を使って、クリスマスキャンドルを作ろうと企画したもの。今回は、材料の準備や作業場所の制約から、20人の申し込み制としたが、12月21日という期日も手伝い、申し込み開始日即日に満員となった。なお、申し込み者全員の参加があった。小学校3年生以下の子どもたちには保護者の同伴をお願いしたこともあって、今回は親子の参加が目立った。結局、同伴者を含めて30名ほどになった。
(担当) 佐川、北水



<ギャラリートーク>

日時 平成15年2月25日(水)・26日(木)・28日(土)・29日(日)、
3月6日(土)・7日(日)・13日(土)・14日(日)・21日(日)・28日(日)・30日(火)、
4月4日(日)・10日(土)・11日(日)

会場 企画展示室

講師 鶴飼レイ子、北谷澄子、中村知子、西山縫子、新見由美子、平田浩子、藤田輝子、渡辺富子、渡辺京子(以上「民俗に親しむ会」)

(内容) 「民俗に親しむ会」活動の一環として、企画展「布と着物—縫う・繕う・着る・装う・楽しむ」の関連事業に位置付けて行なった。展示期間中に、会のメンバーが交代でギャラリートークを行なうもので、毎週日曜日を基本としたが、メンバーの都合がつけば、自主的に随時行なうこととした。日数や曜日が多岐にわたっているのはそのためである。ギャラリートークにあたっては、来館者に対して解説をおしつけるのではなく、布や着物について詳しい知識や技術をお持ちの方々から、さまざまな情報や知識を教えていただくという姿勢で、必要に応じて解説をしたり、質疑応答を行なった。また、時には来館者の方々の思い出話の聞き役に徹するなど、来館者に対して自然な形で接したため、概ね好評をいただくことができた。



(担当) 佐川

■ 刊行物

<図録、冊子>

・『Report—大磯町郷土資料館だより』24

B5版 8頁 800部(平成15年12月刊)

- ・資料館資料 8『大磯町郷土資料館収蔵資料目録 民俗（生活）資料―衣―』
A4版 40頁 500部（平成15年2月刊）
- ・『年報―平成14年度―』
A4版 40頁 500部（平成15年3月刊）
- <チラシ>
- ・企画展チラシ『第2回漂着物展前期展示「漂着物の物語り」／後期展示「私のお宝／ビーチコーミング・アート」公募展』
A4版 ― 4,000部（平成15年6月刊）
- ・企画展チラシ『開館15周年記念展「考古資料展」』
A4版 ― 3,000部（平成15年10月刊）
- ・企画展チラシ『布と着物―縫う・繕う・着る・装う・楽しむ』
A4版 ― 3,000部（平成16年12月刊）
- ・企画展案内ハガキ『布と着物―縫う・繕う・着る・装う・楽しむ』
はがき版 ― 1,000部（平成16年2月刊）
- <その他>
- ・企画展リーフレット『第2回漂着物展前期展示「漂着物の物語り」』
A4版 6頁コピー対応（平成15年6月刊）
- ・企画展リーフレット『第2回漂着物展後期展示「私のお宝／ビーチコーミングアート」公募展』
A4版 4頁コピー対応（平成15年7月刊）
- ・企画展リーフレット『開館15周年記念展「考古資料展」解説シート』①、②
A4版 2頁コピー対応（平成15年10月刊）
- ・常設展リーフレット『照ヶ崎の生き物たち』
A4版 4頁 1,000部（平成15年11月刊）
- ・企画展リーフレット『布と着物―縫う・繕う・着る・装う・楽しむ』
A4版 6頁コピー対応（平成16年2月刊）
- ・講座通信『民俗に親しむ会』No.45～54
A4版 1～4頁 コピー対応（年間・随時）
- ・講座通信『海の教室』No.10～11
A4版 6頁 コピー対応（平成15年10月、平成16年2月刊）
- ・講座通信『草と木の調査』
A4版 2～8頁 コピー対応（年間・随時）

■調査・研究・普及

<館内外の活動>

- ・博物館資料調査／年間／大磯町内外（佐川、國見、北水）
- ・神奈川県博物館協会役員会出席／年間／神奈川県立歴史博物館（武藤）
- ・神奈川県博物館協会合同部会、編集委員会、研修会出席／年間／神奈川県立歴史博物館他（北水）
- ・神奈川県博物館協会 50周年記念事業実行委員会出席／年間／神奈川県立歴史博物館（國見）
- ・大磯町教育研究所特別研究部会「大磯の自然に関する調査・研究部会」講義／4月21日、5月7日、6月9日、7月3日・30日、9月5日、10月8日、11月13日、12月3日、1月13日、2月4日、3月5日／教育研究所（北水）
- ・大磯町史考古部会出席／5月5日、7月20日／大磯町立図書館（國見）
- ・大磯町教育研究所「大磯の自然に関する調査・研究部会」野外観察会指導／5月18日、6月29日、9月28日、2月29日／大磯町内（北水）
- ・大磯町立大磯小学校社会科発展学習・クラス総合学習講義／5月23日／館内（國見、北水）
- ・駒澤大学博物館実習講義／6月29日／館内（國見）
- ・大磯町生涯学習館「自然・化学体験教室」指導／7月5日、8月22日、10月18日／大磯町内、江ノ島水族館（北水）
- ・大磯町立大磯幼稚園「照ヶ崎海岸散策」指導／7月9日／照ヶ崎海岸（北水）
- ・大磯警察署研修会講義／7月17日・18日／大磯警察署（佐川）
- ・東海大学博物館実習講義／8月4日・5日、2月24日／東海大学（佐川）
- ・新採用養護教諭「社会体験研修」指導／8月6日・7日・8日／館内他（武藤、佐川、國見、北水）
- ・大磯町教育研究所研修講座「総合学習に生かせる大磯の自然散策」指導／8月21日／高麗山（北水）
- ・大磯町生涯学習館「夏休み子ども工作教室―巣箱作り―」指導／8月26日／生涯学習館（北水）
- ・西小磯東七夕保存会研修参加／8月26日／大山寺方面（佐川）
- ・大磯町立国府小学校3学年総合学習講義／9月10日・17日、11月18日／国府小学校（佐川）

- ・相模民俗学会研究会出席／9月21日、1月18日／神奈川県立歴史博物館（佐川）
- ・大磯町立大磯小学校自然観察学習指導／10月16日／長谷川方面（北水）
- ・大磯町立国府小学校3学年総合学習指導／10月29日・30日／館内（佐川）
- ・日本民具学会理事会・評議委員会・大会参加／11月22日・23日／東北歴史博物館（佐川）
- ・関東学院大学文学部比較文化学科ゼミナール学外活動講義／12月6日／館内（佐川）
- ・大磯町立国府中学校1学年「総合的な学習」指導／12月12日／館内（佐川）
- ・厚木市郷土資料館普及講座講義／3月22日／厚木市古民家岸邸（佐川）

<施設・展示解説>

- ・大磯町新採用職員研修／5月14日／9人（北水）
- ・大磯町学校職員新採用職員研修／5月20日／6人（北水）
- ・日経旅行ツアー／6月1日／31人（佐川）
- ・大磯プリンスホテル／6月1日／7人（佐川）
- ・まきば幼稚園／6月3日／30人（佐川）
- ・日経旅行ツアー／6月12日／30人（佐川）
- ・横須賀市音訳ボランティア「はまゆうの会」／7月2日／15人（北水）
- ・中郡小学校社会科研究会／7月25日／10人（佐川）
- ・山口村児童交流（児童以外の関係者）／7月26日／25人（佐川）
- ・まきば幼稚園／9月3日／30人（佐川）
- ・大磯町立大磯小学校2学年／10月21日／120人（佐川、國見、北水）
- ・宮城県利府町議会議員研修／2月13日／3人（武藤、佐川）
- ・神奈川大学日本常民文化研究所／3月30日／4人（佐川）

<執筆>

佐川和裕

- 2003.4.5.6.7.8.9.10.12./2004.1.3 『民俗に親しむ会 Information』No.45～54 大磯町郷土資料館
- 6. 『第2回漂着物展 前期展示 漂着物の物語り』企画展リーフレット 大磯町郷土資料館
- 6. 『大磯町史8 別編民俗』（分担執筆）大磯町
- 10./2004.2 『海の教室通信』No.10～11 大磯町郷土資料館
- 11. 「松本順の生人形（いきにんぎょう）」『Report 大磯町郷土資料館だより』24 大磯町郷土資料館
- 2004.2. 『大磯町郷土資料館収蔵資料目録 民俗（生活）資料—衣—』（共著）資料館資料8 大磯町郷土資料館
- 2. 『布と着物—縫う・繕う・着る・装う・楽しむ』企画展リーフレット 大磯町郷土資料館
- 3. 「平成15年度博物館実習「展示実習」（分担執筆）『東京家政学院生活文化博物館年報』第13号 東京家政学院生活文化博物館

國見 徹

- 2002.10. 『展示解説シート』①,② 開館15周年記念考古資料展リーフレット 大磯町郷土資料館
- 11. 「開館15周年記念 考古資料展」『Report 大磯町郷土資料館だより』No.24 大磯町郷土資料館

北水慶一

- 2002.5.6.7.8.9.10.11.12./2004.1.2.3. 『草と木の調査だより』No.03-01～11 大磯町郷土資料館
- 11. 「2003年ウミガメ情報」『Report 大磯町郷土資料館だより』No.24 大磯町郷土資料館
- 2004.3. 「ウミガメ漂着の記録（2002年）」『年報—平成14年度—』 大磯町郷土資料館
- 3. 『高麗山南面の樹木』（共著）大磯町文化財調査報告書第47集 大磯町郷土資料館

加藤廣美

- 2004.2. 『大磯町郷土資料館収蔵資料目録 民俗（生活）資料—衣—』（共著）資料館資料8 大磯町郷土資料館

■ 博物館実習

平成15年度の博物館実習は、3大学より3名の学生を受け入れた。実習期間は10月21日から11月3日の間（10月26日・27日・11月2日を除く）および9月3日（事前ガイダンス）、11月7日（課題等提出）の計13日であった。

当館の実習は、実習期間の前後半で内容を分けて行なっており、前半は考古、民俗、自然の分野別作業や梱包、軸物の取り扱いといった実務作業を中心に、資料館活動が全体的に掌握できる内容にしている。短期間の実習であるため、個別の専門分野の知識取得には結びつかないが、博物館の業務の流れ、地域博物館の現状を認識していただくことに主眼を置いている。



実習後半では、前半の実習の成果を踏まえ、常設展示室の展示替実習を行なっている。企画立案から実際の展示完成まで実習生が主体となって進めており、本年度は「照ヶ崎の生き物たち」と題する展示とした。照ヶ崎は全国的に珍しいアオバトの集団飛来地として知られ、県の天然記念物に指定されている。アオバトの生態を掻い摘んで紹介するとともに、岩場に生息する貝類、周辺海域を飛来する鳥類を紹介した。自然科学専攻の学生はいなかったが、真摯に作業に望み、紆余曲折はあったものの無事、展示は完成した。展示内容にあわせてB5版4頁のリーフレットも作成した。

<実習生>

杉崎真也（駒澤大学）、大地晴久（東海大学）、神田明香（青山学院大学）

<課程>

月 日	曜日	午 前	午 後
9月3日	水		ガイダンス
10月21日	火	講義（資料館の活動概要）	町内施設見学
10月22日	水	講義（資料の取り扱いと梱包）	資料梱包
10月23日	木	民具整理（漁船クリーニング）	軸物・箱物の取り扱い／民具整理
10月24日	金	講義（博物館資料の受入）／考古資料整理	考古資料整理／民具資料整理
10月25日	土	「海の教室」参加	漂着物整理／自然史資料整理
10月26日	日		休 講
10月27日	月		休 講
10月28日	火	展示替実習（展示構想打ち合わせ、資料調査）	
10月29日	水	展示替実習（資料調査、写真撮影、旧展示片付け）	
10月30日	木	展示替実習（原稿作成、写真撮影、旧展示資料返却）	
10月31日	金	展示替実習（原稿作成、キャプション作成）	
11月1日	土	展示替実習（リーフレット編集、キャプション作成、展示台作成）	
11月2日	日		休 講
11月3日	月	展示替実習（パネル作成、リーフレット編集、片付け、記録作成等）	
11月7日	金	展示点検、補足作業、課題提出、総括	

（担当）北水、國見、佐川

■博物館資料の収集と利用

〈資料の館外貸出〉

資料名	点数	利用目的	期 間	申請者	資料名	点数	利用目的	期 間	申請者
考古資料	3	図録掲載	H15. 4. 25 ～ 6. 10	横浜市 歴史博物館	写真	2	紙面掲載	H15. 11. 18 ～ 11. 27	翡翠工房
考古資料	1	展示	H15. 4. 25 ～ 7. 17	横浜市 歴史博物館	考古資料	1	授業	H15. 11. 21 ～ 11. 21	大磯町立 国府中学校
民俗資料	25	町史編纂	H15. 5. 20 ～ 9. 26	大磯町立 図書館	ビデオ	1	取材	H15. 12. 5 ～ 12. 10	株タウン ニュース
写真	2	刊行物掲載	H15. 5. 21 ～ 6. 9	(株)ミジェット	本『貝Ⅱ』	1	参考資料	H15. 12. 13 ～ 12. 18	個人
写真	2	刊行物掲載	H15. 5. 22 ～ 6. 10	個人	写真 他	2	展示	H15. 12. 18 ～ 12. 26	どじいさか 事務所
剥製ハクビシン	1	放映	H15. 5. 29 ～ 6. 3	(株)TBSライブ	ビデオ	1	参考資料	H15. 12. 13 ～ 12. 27	個人
竹神輿 他	10	展示	H15. 7. 10 ～ 9. 10	安城市 歴史博物館	ビデオ	1	参考資料	H15. 12. 25 ～ 1. 10	個人
写真	2	刊行物掲載	H15. 6. 18 ～ 7. 7	湘南リビング 新聞社	写真	1	紙面掲載	H15. 12. 25 ～ 1. 24	大磯町 議会事務局
総合案内表紙	1	雑誌掲載	H15. 7. 6 ～ 7. 25	個人	航空写真	2	地形調査	H16. 1. 15 ～ 1. 16	大磯町役場 美化センター
文書	1	町史編纂	H15. 8. 22 ～ 9. 5	大磯町立 図書館	ビデオ	1	授業	H16. 1. 22 ～ 1. 23	大磯町立 国府中学校
写真	1	副読本掲載	H15. 9. 1 ～ 3. 31	大磯町 学校教育課	写真	1	副読本掲載	H16. 2. 2 ～ 3. 31	大磯町 学校教育課
考古資料	11	町史編纂	H15. 9. 9 ～ 10. 31	大磯町立 図書館	写真	1	刊行物掲載	H16. 2. 4 ～ 2. 24	個人
浮世絵 他	2	展示	H15. 9. 26 ～ 11. 12	藤沢市 教育委員会	写真	1	刊行物掲載	H16. 2. 17 ～ 3. 8	株タウン ニュース
絵はがき 他	9	町史編纂	H15. 10. 10 ～ 10. 10	大磯町立 図書館	文書	1	参考資料	H16. 2. 21 ～ 3. 11	個人
写真	1	刊行物掲載	H15. 10. 11 ～ 10. 15	株タウン ニュース	ビデオ プロジェクター	1	ビデオ上映	H16. 2. 24 ～ 2. 25	大磯町 子育て介護課
絵はがき 他	2	紙面掲載	H15. 10. 17 ～ 11. 5	スーパー・リー	写真	1	刊行物掲載	H16. 2. 25 ～ 3. 14	コムゼット
写真	1	紙面掲載	H15. 10. 18 ～ 10. 31	大磯町 議会事務局	考古資料 他	7	町史編纂	H16. 2. 25 ～ 2. 26	大磯町立 図書館
写真	4	紙面掲載	H15. 10. 5 ～ 10. 24	(株)あ・うん	スライド	7	ポスター	H16. 2. 28 ～ 4. 11	個人
絵はがき 他	2	紙面掲載	H15. 11. 6 ～ 11. 26	スーパー・リー	掛軸 他	6	祭礼	H16. 3. 6 ～ 3. 7	西小磯西区長
考古資料	一式	町史編纂	H15. 11. 12 ～ 12. 2	大磯町立 図書館	文書	1	参考資料	H16. 3. 12 ～ 3. 20	個人
土器	8	展示	H15. 11. 1 ～ 12. 24	東海大学校地 内遺跡調査団	松本順像	1	展示	H16. 3. 13 ～ 5. 14	町田市立 博物館
ボーリングデータ	5	資料作成	H15. 11. 14 ～ 12. 3	国土地理院					

〈資料の特別利用〉

資料名	点数	利用目的	年月日	申請者	資料名	点数	利用目的	年月日	申請者
公図	1	撮影／照合	H15. 4. 8	(株)第一測量設計事務所	手燭 他	6	撮影／掲載	H15. 9. 26	大磯町立大磯小学校
図録	1	撮影／展示	H15. 4. 10	横浜開港資料館	漂着物	一括	撮影／発表	H15. 10. 3	個人
写真	3	撮影／展示	H15. 4. 14	神奈川県自然環境保全センター	絵はがき	1	撮影／刊行	H15. 10. 17	スーパー・リー
ポジフィルム	3	撮影／掲載	H15. 4. 15	横浜開港資料館	館内展示	—	撮影／資料	H15. 10. 21	個人
七夕資料	—	撮影／展示	H15. 4. 26	安城市歴史博物館	館内展示	—	撮影／資料	H15. 10. 21	個人
写真	2	撮影／資料	H15. 5. 20	個人	館内展示	—	撮影／資料	H15. 10. 21	個人
写真	1	撮影／展示	H15. 5. 22	株読売広告社	館内展示	—	撮影／資料	H15. 10. 22	個人
館内展示	—	撮影／資料	H15. 5. 23	大磯町立大磯小学校	館内展示	—	撮影／資料	H15. 11. 18	個人
写真	2	撮影／掲載	H15. 5. 24	神奈川県自然環境保全センター	館内展示	—	撮影／資料	H15. 11. 27	個人
建物外観	—	撮影／掲載	H15. 6. 2	(株)日本アートセンター	館内展示	—	撮影／資料	H15. 12. 18	どじいさか事務所
館内展示	—	撮影／掲載	H15. 6. 7	読売新聞社	考古資料	—	撮影／発表	H15. 12. 19	個人
館内展示	—	撮影／掲載	H15. 6. 7	毎日新聞社	館内展示	—	撮影／掲載	H16. 1. 20	株あうん
図録	1	撮影／掲載	H15. 7. 6	個人	写真	1	撮影／掲載	H16. 2. 4	個人
絵はがき	2	撮影／展示	H15. 7. 7	寒川町町史編纂係	絵はがき	1	撮影／掲載	H16. 2. 17	寒川町町史編纂係
館内展示	—	撮影／資料	H15. 7. 20	個人	写真	1	撮影／刊行	H16. 2. 25	コムゼット
図録	16	撮影／資料	H15. 8. 5	個人	館内展示	—	撮影／資料	H16. 2. 27	個人
写真	8	撮影／掲載	H15. 8. 19	東海大学校地内遺跡調査団	館内展示	—	撮影／資料	H16. 3. 9	個人
建物外観	—	撮影／放映	H15. 8. 26	TVKテレビ	館内展示	—	撮影／資料	H16. 3. 10	個人
館内展示	—	撮影／資料	H15. 9. 7	個人	館内展示	—	撮影／資料	H16. 3. 14	個人
館内展示	—	撮影／資料	H15. 9. 20	個人					

〈寄贈資料〉

(敬称略)

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先	No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2003-0401	H15. 4. 2	絵はがき	5	鈴木 昇 大磯町西小磯	1006	H15. 10. 11	ゲタ	2組	藤田輝子 大磯町高麗
0403	H15. 4. 11	ラジオ 他	一括	千野英子 横浜市磯子区	1007	H15. 10. 18	雛人形 他	一括	塚本哲夫 大磯町生沢
0501	H15. 5. 8	五月人形	一式	長谷川義男 大磯町月京	1008	H15. 10. 22	トウミ 他	一括	露木孝雄 大磯町国府本郷
0502	H15. 5. 19	スタンド	1	千野英子 横浜市磯子区	1009	H15. 10. 29	衣類	一括	西山敏夫 二宮町山西
0503	H15. 5. 21	写真	一括	尾崎芳治 大磯町大磯	1101	H15. 11. 1	測量器	1	渡辺ヤス子 大磯町西小磯
0504	H15. 5. 21	蚊帳	1	鈴木菊え 大磯町西小磯	1102	H15. 11. 20	昆虫標本 他	一括	木村純子 大磯町大磯
0505	H15. 5. 27	貝殻 他	4	安藤次郎 平塚市東真土	1201	H15. 12. 3	シルクハット 他	3	塚本哲夫 大磯町生沢
0506	H15. 5. 24	アイロン台 他	一括	千野英子 横浜市磯子区	1202	H15. 12. 12	書籍 他	28	西山敏夫 二宮町山西
0507	H15. 5. 24	レコードの スタンパー	1	新見紀雄 大磯町東小磯	1203	H15. 12. 16		1	西山敏夫 二宮町山西
0601	H15. 6. 5	桶職人道具	2	山本武男 大磯町大磯	2004-0101	H16. 1. 9	オヒツ	1	飯田福信 大磯町大磯
0602	H15. 6. 10	野球ゲーム	1	田口 元 大磯町大磯	0102	H16. 1. 14	名称不明 (ホース巻取用の車)	1	南 博 大磯町大磯
0603	H15. 6. 24	雛人形 他	一括	椎野スエ 大磯町東小磯	0103	H16. 1. 22	祝い着	2組	栗原平太郎 大磯町東小磯
0701	H15. 7. 2	絵はがき 他	一括	加藤廣美 大磯町国府本郷	0104	H16. 1. 31	カトウロウ	1	飯田福信 大磯町大磯
0702	H15. 7. 26	古書籍	26	藤田輝子 大磯町高麗	0201	H16. 2. 2	紙幣 他	一括	飯田福信 大磯町大磯
0801	H15. 8. 8	雛人形	一式	樺山紀次 大磯町大磯	0202	H16. 2. 5	雛人形	二式	出縄礼子 大磯町東小磯
0803	H15. 8. 19	昆虫標本 他	一括	木村純子 大磯町大磯	0203	H16. 2. 7	カメラ 他	一括	飯田福信 大磯町大磯
0804	H15. 8. 22	書籍 他	一括	鈴木 昇 大磯町西小磯	0204	H16. 2. 10	ツバノミ 他	10	西山敏夫 二宮町山西
0805	H15. 8. 28	衣類 他	一括	加藤登思枝 大磯町国府本郷	0205	H16. 2. 27	衣類	4	野田静子 平塚市広川
0901	H15. 9. 2	ヒバチ 他	2	南 博 大磯町大磯	0206	H16. 2. 29	アルミ箔テープ	1	市原 誠 大磯町大磯
0902	H15. 9. 10	ケガニの剥製 他	2	小林幸男 大磯町西小磯	0301	H16. 3. 4	ハンギリ 他	45	尾崎三郎 大磯町大磯
0903	H15. 9. 10	記念入場券	3組	加藤嘉義 大磯町大磯	0302	H16. 3. 5	コテ 他	2	竹内治雄 大磯町生沢
0904	H15. 9. 25	昆虫標本 他	一括	木村純子 大磯町大磯	0303	H16. 3. 5	書籍	1	河原良三 大磯町大磯
0905	H15. 9. 25	ウキ 他	一括	伊藤貞夫 平塚市万田	0304	H16. 3. 7	ヤブサメのマト 他	4	西小磯(東西)区
0906	H15. 9. 26	ビールの空瓶	4	佐川和裕 平塚市南原	0305	H16. 3. 12	スイクチ	1	西山敏夫 二宮町山西
1001	H15. 10. 2	国旗	2	片岡登美子 大磯町国府本郷	0306	H16. 3. 13	メモリのゲタ	2	田中 静 大磯町高麗
1002	H15. 10. 2	冊子 他	一括	鈴木 昇 大磯町西小磯	0310	H16. 3. 17	フロシキ	1	鈴木菊え 大磯町西小磯
1003	H15. 10. 2	トックリ 他	5	杉崎公子 平塚市虹ヶ浜	0311	H16. 3. 31	フロシキ 他	一括	西山敏夫 二宮町山西
1004	H15. 10. 7	ヘソ石 他	8	山中盛作 横須賀市秋谷	0312	H16. 3. 31	サイズチ	1	新見由美子 大磯町東小磯
1005	H15. 10. 8	雛人形	一式	川村 忠 大磯町大磯					

〈寄託資料〉

(敬称略、寄託期間:H14. 4. 1~H16. 3. 31)

No.	受入年月日	資料名	数量	受託先	No.	受入年月日	資料名	数量	受託先
2002-0401	H14. 4. 1	雛人形	一式	田川順三 横浜市緑区	0413	H14. 4. 1	掛軸 他	一括	西小磯東・西区
0402	H14. 4. 1	高札	3	坂井保治 大磯町黒岩	0414	H14. 4. 1	統監帽 他	一括	西小磯東区
0403	H14. 4. 1	一本松稲荷講中 資料	一括	宮代治吉 大磯町大磯	0415	H14. 4. 1	獅子頭	2 (一対)	裡道区
0404	H14. 4. 1	菊池重三郎関係 資料	一括	菊池なつみ 大磯町大磯	0416	H14. 4. 1	書籍 他	一括	飯島成三 横浜市中区
0405	H14. 4. 1	クロッカスガーデン 看板	1	添田光雄 大磯町国府本郷	0417	H14. 4. 1	吉田茂杯 他	5	大磯中学校
0406	H14. 4. 1	書(断片)	一括	加藤文八 平塚市諏訪町	0418	H14. 4. 1	古文書	1	近藤敬一郎 東京都新宿区
0407	H14. 4. 1	古文書	一括	後藤 勲 大磯町月京	0419	H14. 4. 1	書幅	1	二宮勝男 平塚市下吉沢
0408	H14. 4. 1	稲荷講資料	一括	戸塚 浩 大磯町西小磯	0420	H14. 4. 1	随神、屏風	3	南本町区
0409	H14. 4. 1	書籍	2	山川 正 大磯町国府新宿	2003-0402	H15. 4. 1	日誌 他	10	小見滋夫 大磯町西小磯
0410	H14. 4. 1	子ども会旗 七夕資料	一括	西小磯西子ども会	0404	H15. 4. 1	木造神像群	11	高来神社 大磯町高麗
0411	H14. 4. 1	古文書 他	一括	守屋町子 大磯町黒岩	0405	H15. 4. 1	木造仁王像	2 (一対)	慶覚院 大磯町高麗
0412	H14. 4. 1	稲荷講資料	一括	中村晴夫 大磯町西小磯					

〈移管資料〉

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先	No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2004-0104	H16. 1. 16	ラジオ 他	2	大磯町 美化センター	0308	H16. 3. 17	日の丸	1	大磯町立 国府中学校
0305	H16. 3. 6	額(島崎藤村拓本)	1	大磯町 町民福祉部福祉課	0309	H16. 3. 17	短冊	1	大磯町役場 経済観光課

〈採集資料〉

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2003-0802	H15. 8. 10	硝子瓶	2	「ヤキバの塚」 三浦市南下浦町

〈購入資料〉

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先	No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2003-1103	H15. 11. 1	書籍(「萬祝」)	1	古書 街の風 東京都千代田区	2004-0205	H16. 2. 27	「太陽」15巻15号	1	古書 街の風 東京都千代田区

<寄贈図書一覧>

出版地	寄贈者	書名	発行年月
大磯町	大磯町ガイドボランティア協会	『大磯の別荘と史跡』	2003/08
伊勢原市	伊勢原市教育委員会	『小中学校歴史読本 いせはらのむかし』	2003/03
寒川町	寒川町企画部町史編さん課	『寒川町史調査報告書 13』	2003/03
		『寒川町史研究 第16号』	2003/03
		『寒川町史16 別編ダイジェスト さむかわ歴史ものがたり100』	2003/03
		『寒川町史14 別編 統計』	2003/02
茅ヶ崎市	茅ヶ崎市教育委員会	『茅ヶ崎市文化振興財団調査報告4 西久保・上ノ町遺跡 下町屋・石原B遺跡』	2002/03
		『茅ヶ崎市文化振興財団調査報告5 上東原下遺跡』	2002/11
	茅ヶ崎市文化資料館	『茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告17 市内遺跡試掘・確認調査報告1』	2003/03
		『茅ヶ崎 自然の新聞』第247～250、252～254号	2003-2004
		『文化資料館調査研究報告11 2003』	2003/03
秦野市	秦野市教育委員会	『秦野の文化財 第39集』	2003/03
	秦野市史編纂委員会	『秦野市文化財調査報告書7 秦野の暮らしと民具』	2003/03
		『秦野市史研究 ～22号～』	2003/03
		『新聞記事(神奈川新聞)目録 第6集』	2003/03
	秦野市総務部文書法制課	『秦野市史料叢書8 新聞記事(新聞から見た秦野のあれこれ)』	2004/01
	秦野市立桜土手古墳展示館	『桜土手古墳展示館だより Vol.21』	2003
		特別展『丹沢を仰ぐ縄文遺跡 ～後・晩期の隆盛～』図録	2003/10
		『研究紀要 第4号』	2003/03
平塚市	平塚市教育委員会	『あなたと博物館 第317号 5月号』	2003
		『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書3 第1分冊』	2003/03
		『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書3 第2分冊』	2003/03
		『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書3 第3分冊』	2003/03
		『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書3 第4分冊』	2003/03
		『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書4』	2003/03
		『平塚市文化財調査報告書 第34集 平塚市神輿・屋台調査』	2003/03
		『平塚市埋蔵文化財シリーズ38 神明久保遺跡 -第8地点-』	2003/03
		『平塚市埋蔵文化財調査報告書 第16集 山王A遺跡 -第5遺跡-』	2003/03
		『映像記録 平塚の人形浄瑠璃芝居 (ビデオ)』	2003/06
	平塚市中央図書館	『地方行政資料目録 平成14年度』	2003/06
	平塚市博物館	夏期特別展『身近な地学ハイキング』図録	2003/07
		特別展『火星大接近2003』図録	2003/10
		『平塚市史 7下 別編考古(2)』	2003/03
		『金目の地域から大志を拓く ～金目の自由民権運動～』	2002/10
		『ガイドブック18 平塚の戦争体験』	2001/03
		『平塚市博物館研究報告 自然と文化 No.26 2002』	2003/03
		『平塚市博物館年報 No.26 2002』	2003/03
		『市民が探る平塚空襲 史料編(一)』	2003/03
		『平塚市博物館資料No.51 平塚市博物館所蔵資料目録Ⅶ ～出雲家所蔵文書～』	2002/03
		『平塚市博物館資料No.52 平塚市博物館所蔵地質資料目録2 鉱物(第2版)』	2003/03
		『震災調査報告書』	1999/03
		『ガイドブック21 星空博物館 ～太陽系の仲間たち～』	2003/03
	平塚市美術館	『横田七郎展』図録	2003/04
		企画展『幻想と幻視 ～混在領域と領域侵犯～』図録	2003/10
		『野町和嘉 写真展 祈りの大地』図録	2003/07
		『岡本秋暉展 小田原藩の絵師』図録	2004/02
		『関東の道 道路写真館7』	2003/08
藤沢市	日本大学生物資源科学部資料館	『資料館報 第12号』	2003/03
	藤沢市教育委員会	企画展『「江の島」から“湘南”へ』図録	2003/10
		『藤沢市文化財調査報告書 第38集』	2003/03
	藤沢市文書館	『藤沢市文書館 紀要 二十五』	2003/03
		『藤沢市史料集(二十七)天保末期の遊暦日記 小川泰堂「艸枕之記」』	2003/03
		『藤沢市史研究 第36号』	2003/03
小田原市	神奈川県立 生命の星・地球博物館	『自然科学のとびら』33、34号	2003
		特別展『侵略とかく乱のはてに ～移入生物問題を考える～』図録	2003/07
		『神奈川県立生命の星・地球博物館 年報 第8号 (2002年度)』	2003/03
	報徳博物館	『報徳博物館館報 No.14』	2003/06
箱根町	箱根町立郷土資料館	『福住旅館 金泉楼・萬翠楼』図録	2003/09
南足柄市	南足柄市郷土資料館	特別展『金太郎 ～鮮やかに彩られた浮世絵の世界～』図録	2002/04
山北町	山北町教育委員会	『国指定重要無形文化財 山北のお峯入り』	2003/03
	山北町地方史研究会	『足柄乃文化 第30号』	2003/03

横浜市	馬の博物館	『別冊 足柄乃文化 総目録(1～30号)』	2003/03
		『馬の博物館だより No.40』	2003/09
		特別展『駆けめぐる馬たち ～馬と人とが会おう場所～』図録	2003/09
		『研究紀要 第15号』	2004/02
		『うまはくブックレットNo.6 ハミの発明と歴史』	2004/01
		『うまはくブックレットNo.7 横浜ウマ物語 ～文明開化の蹄音』	2004/03
		『うまはくブックレットNo.5 ウマ社会のコミュニケーション』	2002/12
(財)かながわ考古学財団		『かながわ考古学財団調査報告152 白幡浦島丘遺跡』	2003/03
		『かながわ考古学財団調査報告128 用田鳥居前遺跡』	2002/03
		『かながわ考古学財団調査報告151 葛原滝谷遺跡 葛原下滝谷戸遺跡』	2003/03
		『かながわ考古学財団調査報告153 吉岡遺跡群 B区第2次調査』	2003/03
		『かながわ考古学財団調査報告158 三ッ俣遺跡IV(H地区)』	2003/12
		『かながわ考古学財団調査報告160 桜山うつき野遺跡』	2004/02
		『かながわ考古学財団調査報告157 下寺尾西方A遺跡』	2003/12
		『かながわ考古学財団調査報告161 小田原城跡八幡山遺構群Ⅱ(第2次調査)』	2004/03
		『かながわ考古学財団調査報告155 濱横穴墓群』	2003/09
		『かながわ考古学財団調査報告164 由比ガ浜南遺跡』	2004/02
		『研究紀要9 かながわの考古学』	2004/02
		『年報10 平成14年度』	2004/01
神奈川近代文学館		『神奈川近代文学館 Vol.82』	2003/10
神奈川県教育庁生涯学習文化財課		『神奈川近代文学館年報 2002年(平成14年)度』	2003/06
		『埋蔵文化財保護の手引き(改訂版)』	2003/03
		『神奈川県 埋蔵文化財調査報告45』	2003/03
		『民俗芸能で広がる子どもの世界』	2003/03
神奈川県博物館協会		『平成15年度 東海地区博物館連絡協議会 日本博物館協会東海支部 理事会・総会報告書』	2003/03
神奈川県立公文書館		『神奈川県博物館協会会報 第74号』	2003/03
		『公文書館だより 第10号』	2003/11
		特別展『開国と神奈川 ～国際交流事始～』図録	2003/11
		『平成14年度 神奈川県立公文書館年報』	2003/06
		『THE HISTORY OF KANAGAWA』	1985/03
		『ふるさとの文化財 (絵画・彫刻・書跡篇)』	1984/03
		『ふるさとの文化財 (建造物・工芸・歴史資料篇)』	1984/03
		『ふるさとの文化財 (史跡・考古篇)』	1984/03
神奈川県立図書館		『神奈川県文化財圖鑑 工藝篇』	1972/03
		『郷土神奈川 第41号』	2003/03
		『神奈川県立図書館 地域資料目録 2001年版』	2003/03
神奈川県立歴史博物館		『地域資料目録・主題別シリーズ7 神奈川県地方史関係雑誌記事目録(1)』	2003/03
		『神奈川県立歴史博物館だより 163号』	2003/07
		特別展『ペリー来航150周年記念 黒船』図録	2003/04
		特別展『四都美人装い競べ』 図録	2003/01
		特別展『80年目の記憶 ～関東大震災といま～』図録	2003/07
		『神奈川県立博物館研究報告 人文科学一 第29号』	2003/03
		『神奈川県民俗調査報告21 分類神奈川県方言辞典(Ⅰ) 自然・動物・植物』	2003/03
		『神奈川県立博物館 総合研究報告 2003』	2003/03
神奈川大学日本常民文化研究所		『常民研news No.21』	2003/09
神奈川地域史研究会		『神奈川地域史研究会 会報』 第67～70号	2002-2003
		『神奈川地域史研究 No.21』	2003/03
(財)三溪園保勝会		特別展『院展作家の一系譜 三溪園に集まった画家たち』図録	2003/11
		『財団設立50周年記念誌 三溪園 戦後あるばむ 今と昔変わらないもの・なくなったもの』	2003/10
寺家ふるさと村「四季の家」		『はなあふ通信』 8、2月号	2003-2004
ニュースパーク(日本新聞博物館)		『NIEニュース / 日本新聞博物館ニュースパークたより』 No.20、第34号	2004
横浜市教育委員会		『史跡称名寺境内旧伽藍確認調査報告書』	2003/02
		『平成13年度 文化財年報(埋蔵文化財 その20)』	2003/03
		『港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告32 四枚畑遺跡 川和向原遺跡』	2003/03
		『港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告33 西ノ谷貝塚』	2003/03
		『港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告34 ニノ丸遺跡』	2003/03
(財)横浜市ふるさと歴史財団		『笠間中央公園遺跡発掘調査報告書』	2003/12
横浜市立金沢動物園		『横浜市立金沢動物園 20年のあゆみ 1982-2002』	2003/03
横浜市緑政局		『横浜市動物園年報 平成14年度 2002』	2003
横浜市歴史博物館		企画展『東へ西へ』図録	2002/04
		企画展『江戸時代の獅子ヶ谷村』図録	2003/01
		特別展『屋根裏の博物館』図録	2002/10
		企画展『古代と考えるⅢ 文字との出会い 南武蔵・相模との地域社会と文字』図録	2003/05
		収蔵資料展『ペリー来航と東京湾』図録	2003/07

		『横浜市歴史博物館 紀要 Vol.6』	2002/03
		『横浜市歴史博物館 年報 平成13年度版』	2002/03
		『横浜市歴史博物館 資料目録 第10集』	2002/03
	横浜人形の家	『横浜人形の家 イベントニュース』 9～12/2003、3～4/2004	2003-2004
	横浜マライタイムミュージアム	企画展『横浜港と京浜臨海工業地帯』図録	2003/10
	TVKテレビ	『あっぱれ！KANAGAWA大行進 9月7日放送「大磯町」(ビデオテープ)』	2003/09
川崎市	川崎市教育委員会	『川崎市文化財調査集録 36』	2001/03
		『川崎市文化財調査集録 37』	2002/03
	川崎市市民ミュージアム	『museum news』 Vol.69～71	2004
		企画展『古代を考える I 郡の役所と寺院』図録	2003/04
		『川崎市市民ミュージアム 紀要 第15集』	2003/03
	有明文化財研究所	『神奈川県川崎市 井田中原遺跡B地点』	2003/03
鎌倉市	鎌倉市教育委員会	『鎌倉の埋蔵文化財6』	2003/03
		『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19 平成14年度発掘調査報告』	2003/03
		『神奈川県鎌倉市 朝比奈砦 発掘調査報告書』	2003/03
		『神奈川県鎌倉市 五号柁遺跡(仏法寺跡)発掘調査報告書』	2003/03
	鎌倉八幡宮社務所	『鶴岡』 No.95,97	2004
	鎌倉文学館	企画展『小津 安二郎 ～未来へ語りかけるものたち～』図録	2004/04
		企画展『愛の手紙 ～親愛なる者たちへ～』図録	2003/10
三浦市	三浦市教育委員会	『三浦市民俗シリーズ(XIII) 三戸民俗誌2 ～子供組と若者組～』	2002/03
		『高坂横穴群の調査』	1986/03
		『三浦市埋蔵文化財調査報告書 第10集 平成12年度遺跡試掘調査』	2003/03
横須賀市	横須賀市教育委員会	『神奈川県横須賀市 佐島の丘遺跡群』(3分冊)	2003/09
		『国指定重要文化財スチームハンマー(0.5ト)および3トスチームハンマー 移設・解体修理保存工事報告書』	2003/03
		『横須賀市文化財調査報告書 第38集 平成14(2002)年度 新指定重要文化財調査報告 他』	2003/03
	横須賀市自然・人文博物館	『横須賀市博物館報 No.49』	2003/03
		『横須賀市博物館研究報告(人文科学) 第47号』	2003/03
		『横須賀市博物館研究報告(自然科学) 第50号』	2003/03
		『横須賀市博物館資料集 第27号』	2003/01
		『横須賀市内近代化遺産 総合専門調査報告書』	2003/03
	横須賀よこばい歩きの会	『よこばいタイムズ 第26号』	2004
葉山町	葉山しおさい博物館	『潮騒だより』 No.14	2003
		『潮騒ガイドブック⑦ ビーチコーミングガイド 三浦半島 海岸の漂着物』	2003/03
	山口逢春記念館	『山口逢春素描集』	2003/10
厚木市	厚木市教育委員会	『平成十五年 あつぎの遺跡展 及川の遺跡』図録	2004/02
		『厚木市文化財調査報告書 第42集 厚木の小祠・小堂』	2003/03
		『平成13年度 厚木市文化財年報 第1号』	2003/03
		『神奈川県厚木市 温水長久保遺跡群 発掘調査報告書』	2003/12
	西相文化財研究所	『神奈川県小田原市 高田北之前遺跡 第II地点』	2001/11
		『神奈川県藤沢市 用田鳥居前遺跡』	2001/12
		『神奈川県伊勢原市 岡崎・天神下遺跡 第IV地点』	2002/08
	神奈川自然環境保全センター	『自然情報 第2号』	2003/03
綾瀬市	綾瀬市秘書課	『綾瀬市史7 通史編 近現代』	2003/03
清川村	神奈川県立宮ヶ瀬ビジターセンター	『宮ヶ瀬ビジターセンター発2002年メールマガジン 「ヤマセミだより」&丹沢周辺自然情報』	2003/03
相模原市	相模原市教育委員会	『相模原市埋蔵文化財調査報告30 田名向原遺跡 I』	2003/03
		『平成15年 相模原市文化財年報』	2003/08
	相模原市立博物館	『相模原市立博物館 NEWS』 Vol.31,32	2003
		『相模原市立博物館 研究報告 第12集』	2003/12
		『相模原市立博物館資料目録4 テフラ標本目録 町田洋コレクション』	2003/03
		『相模原市立博物館資料目録5 相模原植物誌 I ～標本目録～』	2003/03
座間市	座間市教育委員会	『座間むかしむかし 第二十五集』	2003/03
		『座間のむかし話絵本 おおかみの恩返し』	2003/01
津久井町	津久井町教育委員会	『津久井城の調査VI』	2003/03
		『津久井城の調査 1996-2001』	2003/03
茨城県	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	特別展『青と白の憧憬』図録	2004/03
		『土浦市 2002(平成14)年度版』	2004/03
		『土浦市 上高津貝塚歴史の広場年報 第8号 2001(平成13)年度』	2003/03
		『阿ら地遺跡 ～特別養護老人ホームに伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書～』	2002/12
		『山川古墳群確認調査、西谷津遺跡、北西原遺跡(第6次調査)、神明遺跡(第4次調査)』	2003/03
	玉里村立史料館	『玉里村立史料館報 第8号』	2003/03
栃木県	小山市立博物館	『戦国時代の当世具足 ～伊澤昭二甲冑コレクション～』図録	2003/07

		『小山市立博物館報 第20号 平成14年度版』	2003/09
		『小山市立博物館紀要 第8号 2003』	2003/03
	窯業史博物館	『古代東国出土の施釉陶器』	2001/07
		『栃木県上三川町 坂上北原遺跡』	2000/12
		『栃木県芳賀町 グシ内南遺跡』	2002/03
群馬県	北橋村教育委員会	『平成14年度 北橋村文化財年報4』	2003/03
埼玉県	入間東部地区文化財保護連絡協議会	『歴史と緑の散歩道』	2003/03
	さいたま川の博物館	『かわはく No.17』	2003
	税務大学校租税史料館	特別展『年貢から税金へ』図録	2003/03
		『平成15年3月 租税史料目録 大正編』	2003/03
		『租税史料館報 平成14年度版』	2003/07
	鶴ヶ島市教育委員会	『地慶遺跡 第1～3次調査 発掘調査報告書』	2003/02
		『泉橋遺跡 第1次調査・三ツ木屋敷第2次調査 発掘調査報告書』	2003/03
		『若宮遺跡 第1次調査・東遺跡 第1次調査 発掘調査報告書』	2003/03
	三芳町教育委員会	『中東遺跡発掘調査報告書』	1996/03
	立正大学博物館	『万吉だより(MA GE TI NEWS)』創刊号	2003
		企画展『写真でみる 日本古代木造塔の心礎 ～岩井隆次氏寄贈写真による～』図録	2003/07
		『立正大学博物館年報1 平成14(2002)年度』	2002/03
		『立正大学博物館要説』	2002/04
		『館蔵資料「基礎文献」叢刊 第一輯 久保常晴氏収集寄贈 樺太考古資料』	2003/03
千葉県	我孫子市鳥の博物館	『我孫子市鳥の博物館 調査研究報告』	2003/03
	伊能忠敬記念館	『伊能忠敬記念館年報 第4号』	2003/03
	国立歴史民俗博物館	『民衆文化とつくりだされたヒーローたち ～アウトローの幕末維新史～』図録	2004/03
		『ドキュメント災害史 1703-2003 ～地震・噴火・津波、そして復興～』図録	2003/06
		『歴史を語る サイエンス』	2003/10
	市立市川自然博物館	『年報 平成13年度』	2003/03
		『市立市川自然博物館 研究紀要 市川の自然の記録(第4号)』	2003/03
	袖ヶ浦市郷土博物館	『星野富弘 花の詩画展 記念誌』	2003/05
	千葉県立加曾利貝塚博物館	『貝塚博物館紀要 第30号』	2003/03
	佐原市教育委員会	『佐原市内遺跡発掘調査概報 ～平成12年度・平成13年度号～』	2003/03
	流山市立博物館	『流山市立博物館 年報 No.24』	2003/02
	松戸市立博物館	『まつどミュージアム No.11』	2002
		特別展『川の道 江戸川』図録	2003/10
		『小野 ～小野遺跡第3地点発掘調査報告～』	1998/06
		『小野 ～小野遺跡第1地点発掘調査報告～』	1999/07
		『千葉県松戸市 木戸前II遺跡』	1996/09
		『松戸市立博物館年報 第10号 平成14年度』	2003/08
東京都	板橋区教育委員会	『いたばしの文化財 第5集』	2002/03
	板橋区立郷土資料館	『特別展 日本の砲術』	2004/02
	桜美林大学	『博物館学芸員課程 年報 2002年度版 第4号』	2003/03
	大田区立郷土博物館	『博物館ノート』No.127～132	2003/03
		特別展『動物と考古学』図録	2003/10
		『紀要 第13号 平成14(2002)年度』	2003/03
	お札と切手の博物館	『お札と切手の博物館ニュース』vol.15、16	2003-2004
	お茶の水女子大学	『博物館実習報告 第19号(2003年度)』	2004/01
	外務省外交資料館	『外交史料館報 第17号 平成15年9月』	2003/09
	儀礼文化学会	『儀礼文化ニュース』133～134号	2003
	グリーンタフ事務局	『自然観察』264～237、271号	2003-2004
	駒澤大学考古学研究室	『駒澤考古 29』	2003/03
		『勘八2号墳・滝1号墳 ～矢作川上流域における古墳群～』	2003/03
	駒澤大学禅文化歴史博物館	『駒澤大学禅文化歴史博物館 常設展示解説書「禅の世界」』	2003/03
	駒澤大学博物館講座	『駒澤大学博物館学講座年報 2001年度』	2002/03
		『駒澤大学博物館学講座年報 2002年度』	2003/03
	世田谷区立次大夫堀公園民家園	企画展『人々の暮らしと信仰』図録	2003/11
	台東区下町風俗資料館	『下町風俗資料館 號外』8月7日、9月15日号	2003
	株丹青研究所	『Museum Data No.61』	2003
	東亜建設工業株	『津々浦々 No.73』	2003/08
	東京都江戸東京博物館	『江戸東京博物館 NEWS Vol.43』	2003
		『江戸東京博物館要覧』	2003/03
		『江戸東京博物館要覧 2003』	2003/03
		『東京都江戸東京博物館研究報告 第9号』	2003/10
	東京都埋蔵文化財センター	『東京都埋蔵文化財センター調査報告第125集 汐留遺跡III』	2003/03
	豊島区立郷土資料館	『かたりべ』No.66～71	2002-2003
		収蔵資料展『地図・絵図で豊島区を読む』図録	2002/10
		収蔵資料展『豊島の空襲 戦時下の区民生活』図録	2003/01

		企画展『絆 藍染めの仕事着』図録	2003/06
		『中世豊島氏関係資料集(4) 豊島氏編年史料Ⅲ』	2003/03
		『生活と文化 研究紀要 第13号』	2003/08
日本新聞博物館		『新聞附録万華鏡 “おまけ”にみる 明治・大正・昭和』図録	2003/03
		『アメリカ・イギリスにおける博物館評価の状況に関する報告書』	2003/03
(社)日本ユネスコ協会		『世界遺産 年報2004 No.9』	2003/11
(財)日本博物館協会		『自然探検・博物誌づくり(CD)』	2003
		『調査研究委員会報告書 「博物館の望ましい姿(要旨)について」』	2003/03
		『今後の博物館設置・運営基準と評価の在り方に関するシンポジウム報告書(平成14年度)』	2003/03
		『学芸員による学習支援プログラムの開発(平成14年度)』	2003/03
		『博物館の望ましい姿』	2003/03
船の博物館		『博物館指導者研究協議会 報告書 平成14年度』	2003/03
株式会社文化環境研究所		『船の科学館 資料ガイド4 黒船来航』	2003/07
		『文環研レポート 第21号』	2004
		『Cultivate』 No.20, 21	2003
株式会社平凡社		『日本の別荘・別邸』	2004/04
港区立港郷土資料館		『資料館だより』 第51～53号	2003-2004
		特別展『のぞいて見よう! 大名の家づくりとその暮らし』図録	2003/05
		一周忌追悼展『中藁瑞真 ～人間国宝の技と木工芸の世界～』図録	2003/03
		『平成14年度 港区指定文化財』	2002/10
		『研究紀要7 平成14年』	2003/03
		『港区人物誌 ～尾崎紅葉～』	2003/10
明治大学学芸員養成課		『港郷土資料館報 ～21～ 平成7年度版(2002年度)』	2003/10
		『MUSEOLOGIST-18 2002年度明治大学学芸員養成課程 年報』	2003/03
		『MUSEUM STUDY 14 2002年度明治大学学芸員養成課程 紀要』	2003/03
くにたち郷土文化館		『くにたち郷土文化館 研究紀要 第5号』	2003/03
		『くにたち郷土文化館年報 第7号 平成14年度』	2003/07
東京家政学院大学		『紀要43 自然科学・工学系』	2003/08
		『紀要43 人文・社会科系』	2003/08
東京家政学院生活文化博物館		特別展『癒しの時間・空間 おしゃべり展』図録	2003/10
		『東京家政学院生活文化博物館 年報 第13号』	2003/03
調布市教育委員会		『埋蔵文化財年報 ～平成13年度(2001)』	2003/03
		『下石原遺跡 第37地点の調査(その1)』	2002/03
		『下石原遺跡 第37地点の調査(その2)』	2003/12
		『下布田遺跡 ～第54地点(布田六丁目土地区画整理事業)の調査～ 古代編』	2003/12
バルテノン多摩 歴史ミュージアム		特別展『落合白山神社の三匹獅子舞』図録	2003/05
		共同企画展『新撰組の人々と旧富澤家』図録	2003/11
府中市郷土の森博物館		『府中市郷土の森だより あるむせお』 No.64, 65	2003
		『府中市郷土の森博物館ブックレット4 武蔵の国府と国分寺』	2003/04
		『府中市郷土の森博物館 年報 第16号(平成13年度)』	2003/03
		『府中市郷土の森博物館 紀要 第16号』	2003/03
		『府中市内家分け古文書目録6 押立 町有文書目録(2)』	2003/03
福生市郷土資料室		『ガイドブック 福生の文化財』	2003/03
町田市立自由民権資料館		『町田市立自由民権資料館紀要 自由民権 16号』	2003/03
		『民権ブックス16号 「武蔵野叢誌 一八八三年秋創刊!」』	2003/03
新潟県	上越市立総合博物館	『上越市立総合博物館 年報』	2003/03
山梨県	環境省自然環境局生物多様センター	『生物多様性センター ニュースレター 第9号』	2003/10
		『環境指標種調査(身近な生きもの調査2001) セミの抜け殻データ総目録Ⅱ』	2003/03
長野県	茅野市教育委員会	『特別史跡 尖石遺跡』	2002/03
	茅野市八ヶ岳総合博物館	『紀要 第9号』	2001/03
		『紀要 第10号』	2002/03
		『紀要 第11号』	2003/03
	(財)藤村記念館	『藤村記念館だより 第105号』	2003
	茅野市尖石縄文博物館	『平成14年度記念物保存修理事業(環境整備)に係る試掘調査報告書』	2003/03
静岡県	静岡市立登呂博物館	『静岡市立登呂博物館 館報13 平成14年度』	2003/09
	静岡県立美術館	『アマリス』 No.70, 71	2003
愛知県	安城市歴史博物館	『博物館ニュース』 No.43, 49～51	2002-2003
		特別展『日本の三大七夕』図録	2003/07
		企画展『よみがえる 上宮寺の宝物』図録	2003/11
		企画展『東海の風 桜井の風 ～風あげはお正月だけのもの?～』図録	2001/12
		企画展『再現! からくり人形』図録	2002/07
		特別展『弥生の絵馬 倭人の顔』図録	2003/03
	豊橋市教育委員会	『豊橋の環境史と貝塚』	2002/03
	豊橋市二川宿本陣資料館	『東海道五十三次宿場展 X I ～池鯉鮒・鳴海・宮・桑名～』図録	2003/02
		『旅道具の工夫展』図録	2002/07
		『空から見た東海道 五雲亭貞秀展』図録	2003/10

		『道中日記展 ～近世豊橋の旅人たち～』図録	2002/10	
		『吉田宿のおもかげ展 ～写真と絵はがきから～』図録	2003/04	
		『豊橋市二川宿本陣資料館年報 平成13・14年度』	2003/07	
	豊橋市自然史博物館	『豊橋市自然史博物館年報 第15号 平成14年度』	2003/06	
三重県	舞阪町立郷土資料館	『遠州舞阪宿笹屋家法書』	2003/10	
	亀山市歴史博物館	企画展『衣笠貞之助 ～映画に魅せられた生涯～』	2003/10	
		記念展示『国指定重要文化財 慈恩寺 木造阿弥陀如来立像』図録	2003/10	
		企画展『こどもも！おとなも！調べて体験博物館読めた古文書、むかしの字 ～亀山にのこされたくずし字を読んでみよう、書いてみよう、さがしてみよう～』	2003/07	
		『近世亀山藩関係史料調査報告書 図録編』	2003/03	
		『近世亀山藩関係史料調査報告書 目録編Ⅰ』	2003/03	
		『近世亀山藩関係史料調査報告書 目録編Ⅱ』	2003/03	
	鈴鹿市考古博物館	企画展『文字瓦を考える』図録	2004/01	
		特別展『磯山銅鐸の時代』図録	2003/10	
		特別展『発掘された国府 ～東海道・東山道の国府を掘る～』図録	2002/10	
	速報展『発掘された鈴鹿2002』図録	2003/03		
	企画展『縄文と弥生の間 ～伊勢湾西岸の土器・墓・住まい～』図録	2003/07		
	企画展『弥生時代の石器』図録	2003/01		
	『伊勢国府跡史跡指定記念ミニシンポジウム 近畿・東海の国府 発表要旨』	2002/10		
	『鈴鹿市考古博物館年報 第4号 平成13年度』	2003/03		
	『伊勢国分寺跡 3』	2003/03		
	『伊勢国分寺跡 5』			
	『藤原岳自然科学館報 藤原岳 第25巻 2002年度』	2003/11		
滋賀県	藤原岳自然科学館	『大津暦博だより』 No.52、53	2003-2004	
	大津市歴史博物館	『街道文化 Vol.7』	2003/09	
	草津市教育委員会	『発掘された野路岡田』	2002/12	
		『平成13年(2001年)度 草津市文化財年報』	2003/03	
		『草津市文化財調査報告書52 野路小野山製鉄遺跡 発掘調査報告書』	2003/03	
	草津宿街道交流館	テーマ展『鉄道たび物語展』図録	2003/10	
	テーマ展『癒しの旅情 ～西国巡礼の旅展』図録	2003/04		
京都府	橿京都科学	『Museum Works』 Vol.13、14	2003-2004	
	向日市文化資料館	『図録 20世紀のむこうまち』	2003/03	
	舞鶴市立赤れんが博物館	『赤れんが博物館だより No.36』	2003	
奈良県	奈良文化財研究所	『埋蔵文化財ニュース』 111～113	2003	
兵庫県	神戸市立博物館	『博物館だより No.82』	2003/10	
	龍野市立歴史文化資料館	特別展『中国東北部の玩具』図録	2003/10	
愛媛県	愛媛県歴史文化博物館	『暦博だより 36』	2004/01	
		『北斎展』	2003/10	
		企画展『愛媛・絵馬堂へようこそ！』図録	2003/07	
		『研究紀要 第8号』	2003/03	
		『愛媛県歴史文化博物館資料目録第10集 久保田家文書・上田家文書目録』	2003/03	
		『年報 平成14年度』	2003/05	
高知県	高知県立牧野植物園	『高知県立牧野植物園 年報 第2号(2001-2002)』		
北海道	(財)アイヌ民族博物館	『アイヌ民族博物館だより No.49・50』	2002/09	
		『アイヌの足跡』	2003/03	
		『アイヌ民族のガラス玉に関する 考古学的研究』	2003/02	
		『まんがでウエベケレ(昔話) カンナカムイトウレン(雷神の妹)』	2003/03	
		『まんがアイヌ昔ばなし 雷神の妹』	2003/03	
		『伝承事業報告書2 イオマンテ ～日川善次郎の伝承による～』	2003/03	
	(財)北海道開拓の村	『北海道開拓の村調査研究中間報告5 開拓の村展示建造物からみた 明治・大正期の生活文化史(Ⅰ)』	2004/03	
		『北海道開拓の村要覧 平成15年度』	2003/05	
	岩手県	牛の博物館	『牛のはくぶつかん No.21』	2003/10
			企画展『ミルクの夜明け』図録	2003/07
		『年報 平成14年度』	2003/10	
川井村教育委員会		『平成14年度 国指定重要有形民俗文化財 「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」』	2003/06	

文化財

■文化財専門委員会

<委員の構成>

- ・委員長／高橋秀男（植物）
- ・副委員長／稲葉和也（建築）
- ・委員／三浦勝男（歴史） 薄井和男（彫刻）
小川直之（民俗） 田尾誠敏（考古）

<委員会の開催>

- ・第1回／平成15年 7月 31日 高来神社蔵木造神像群の大磯町指定有形文化財への指定について（諮問）、平成14年度事業報告、平成15年度事業計画、その他
- ・第2回／平成15年11月19日 高来神社蔵木造神像群の大磯町指定有形文化財への指定について（答申）、平成15年度事業の進捗状況、その他
- ・第3回／平成16年 2月12日 高来神社蔵木造神像群の大磯町指定有形文化財への指定について（報告）、平成15年度事業の進捗状況、その他

■文化財の調査

<文化財巡回調査>

町内所在の国・県指定の文化財等の現状と管理状況を把握するため。調査員2名を推薦（県教育委員会より委嘱）し、現地を巡回し実態を調査した。

- ・調査対象／2件（鷹取神社の社叢林、大磯照ヶ崎のアオバト集団飛来地）

<神奈川県民俗芸能緊急調査>

神奈川県内の市町村を対象とした民俗芸能の緊急調査。調査員1名を推薦（県教育委員会より委嘱）し、町内の民俗芸能の悉皆調査を行なった。

<旧三井守之助大磯別邸記録保存調査委託>

旧三井守之助大磯別邸の解体にあたり、記録保存調査を委託した。

- ・委託先／（有）或る日

<大磯町社寺建築調査委託>

町内の社寺建築についての調査を委託した。本年度は六所神社を対象とした。

- ・委託先／大磯町社寺建築調査委員会

■文化財の保護啓発

<「大磯町西小磯の七夕行事」記録映像作成委託>

平成15年度地域伝統芸術等保存事業として実施した。

- ・委託先／（株）空環計画研究所

<釜口古墳管理委託>

県指定史跡釜口古墳の敷地管理を委託した。

- ・委託先／岩本商事

<指定文化財の現状変更>

県指定並びに町指定文化財の現状変更を行なった。

- ・変更対象／3件（大磯高麗山の自然林、宝積院のカヤ、高麗ホルトノキ）

<指定文化財の保護>

指定文化財の保護と管理を奨励するため、交付金並びに修理等補助金を交付した。

- ・町指定有形文化財管理奨励交付金／16件

- ・民俗資料保存団体交付金／6件（高麗山神輿保存会、相模国府祭保存会、大磯御船祭保存会、西小磯七夕保存会、大磯町左義長保存会、白岩神社歩射保存会）
- ・町指定文化財修理等補助金／2件（宝積院のカヤ、高麗ホルトノキ）
- ・国及び県指定文化財保存修理等補助金／2件（王福寺、鷹取神社の社叢林）

<文化財講座>

文化財に対する理解と保護啓発のために文化財講座を行なった。本年度は、「土器の文様をみる」をテーマに、縄文土器等の拓本作業を行ないながら、先人の暮らしを考える内容とした。

- ・日 時 平成 16 年 3 月 20 日（土）
- ・参加者 14 名

<文化財防火デー>

町内所在の文化財保有施設について、消防署の協力のもと防火設備点検を行なった。

- ・日 時／平成 16 年 1 月 20 日（火）
- ・対象施設／延台寺、高来神社

<文化財調査報告書の刊行>

大磯町文化財調査報告書第 47 集『高麗山南面の樹木』を刊行した。

■埋蔵文化財

<埋蔵文化財出土品整理委託>

緊急地域雇用創出特別対策事業の一環として、出土遺物の洗浄並びに注記等を委託した。

- ・委託先／（株）玉川文化財研究所

<文化財保存処理委託>

坂田山南横穴墓群出土金属製品 2 点（飾り金具 1 点、杏葉 1 点）の保存処理を委託した。

- ・委託先／（株）東都文化財保存研究所

<緊急発掘調査等>

開発等にもない、埋蔵文化財にかかわる事前相談に対応し、立会調査並びに試掘調査等を実施した。

- ・照会件数／27 件
- ・事前相談／14 件（個人住宅 6 件、集合住宅 4 件、宅地分譲・造成 4 件）
- ・立会調査／3 件（No.137 遺跡、馬場台遺跡、No.111 遺跡）
- ・試掘調査／7 件（馬場台遺跡 3 件、馬場台遺跡隣接、祇園塚遺跡、No.116 遺跡隣接、No.159 遺跡隣接）

<調査概要>

遺跡の名称	祇園塚遺跡<P地点> (No.140遺跡)
遺跡の種類	遺物散布地
調査期間	平成15年4月22日～5月2日
所在地	大磯町国府本郷字祇園塚前 893-2
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	23.5㎡
調査の原因	集合住宅
発見遺構	住居址、土坑
発見遺物	土師器、須恵器、陶器、磁器、骨
遺跡の時期	古墳時代以降
遺物の保管	大磯町教育委員会

遺跡の名称	馬場台遺跡 (No.114)
遺跡の種類	遺物散布地
調査期間	平成15年5月28日
所在地	大磯町国府本郷字西馬場 1,113-1
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	4㎡
調査の原因	
発見遺構	なし
発見遺物	陶器
遺跡の時期	
遺物の保管	大磯町教育委員会

遺跡の名称	No.137遺跡(東中通) [立会調査]
遺跡の種類	遺物散布地
調査期間	平成15年7月1日、7月18日
所在地	大磯町西小磯字東中通 696-4
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	
調査の原因	個人住宅
発見遺構	なし
発見遺物	土師器
遺跡の時期	
遺物の保管	大磯町教育委員会

遺跡の名称	馬場台遺跡 (No.114) [立会調査]
遺跡の種類	遺物散布地
調査期間	平成15年7月4日
所在地	大磯町国府本郷字大畑 1,396
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	
調査の原因	個人住宅
発見遺構	なし
発見遺物	なし
遺跡の時期	
遺物の保管	

遺跡の名称	No.111遺跡 [立会調査]
遺跡の種類	遺物散布地
調査期間	平成15年7月17日
所在地	大磯町国府新宿字馬乗面 610-4,7,8,9
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	
調査の原因	個人住宅
発見遺構	なし
発見遺物	土師器
遺跡の時期	
遺物の保管	大磯町教育委員会

遺跡の名称	馬場台遺跡43地点 (No.114)
遺跡の種類	遺物散布地
調査期間	平成15年11月5日～6日
所在地	大磯町国府本郷字北久保 1,328外
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	5㎡
調査の原因	宅地造成
発見遺構	なし
発見遺物	土師器、磁器
遺跡の時期	
遺物の保管	大磯町教育委員会

遺跡の名称	No.116遺跡隣接地
遺跡の種類	—
調査期間	平成16年1月22日～23日
所在地	大磯町国府新宿字北日吉 352-9
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	5㎡
調査の原因	宅地造成
発見遺構	なし
発見遺物	須恵器、磁器
遺跡の時期	
遺物の保管	大磯町教育委員会

遺跡の名称	No.159遺跡隣接地
遺跡の種類	—
調査期間	平成16年2月3日
所在地	大磯町大磯字北本町 1,018
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	7㎡
調査の原因	マンション建設
発見遺構	なし
発見遺物	磁器、煉瓦
遺跡の時期	
遺物の保管	大磯町教育委員会

遺跡の名称	No.114遺跡隣接地
遺跡の種類	—
調査期間	平成16年2月24日～26日
所在地	大磯町国府本郷字下梅姥 1,162-3
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	12㎡
調査の原因	集合住宅
発見遺構	なし
発見遺物	土師器、須恵器、白磁、青磁、鉄製品、陶磁器
遺跡の時期	
遺物の保管	大磯町教育委員会

遺跡の名称	馬場台遺跡44地点 (No.114)
遺跡の種類	遺物散布地
調査期間	平成16年2月27日～3月2日
所在地	大磯町国府本郷字西馬場 1,118-1
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	4.5㎡
調査の原因	アパート
発見遺構	住居址
発見遺物	土師器、須恵器、灰釉陶器、羽口
遺跡の時期	古代
遺物の保管	大磯町教育委員会

研究報告

資料館と事業評価・人事評価

※佐川 和裕

近年、各事業所において事業評価の動きが盛んである。大磯町でも平成8年に大磯町行政改革推進本部が設置され、町行政運営全般の合理化を図るための施策について審議が行われてきた(1)。その後、大磯町行政改革推進委員会が組織され、平成14年には第3次行政改革大綱についての答申のなかで事業評価制度の確立が明文化されている。これを受けて、翌15年には町職員による事務事業研究専門部会の設置とともに、研究課題のひとつとして事務事業見直しシートの作成が検討された。そして、平成16年に最初の事務事業評価が実施されている。当館でも町の一施設として事務事業見直しシートに基づき、評価を行なったところである。

ところで、博物館における評価は、既に活発な議論が交わされている。東京都では、いわゆる行政評価によって一部の都立施設を閉館するなどの措置を断行したことで、大きな波紋を呼んだのは記憶に新しい。神奈川県内においては、川崎市市民ミュージアムでも侃侃諤諤の議論がなされていると聞く。しかし、行政評価は数値的な統計と財務が大きな柱であり、必ずしも数値として表れない教育的な効果はもちろん、資料や情報の蓄積を、どのような方法で捉えているのかということは大いに疑問である。このような中で、日本博物館協会では、平成15年に「博物館の望ましい姿—市民とともに創る新時代博物館」と題した報告書をまとめており、博物館の評価基準や望ましい博物館像について独自の指針を示している。いずれにしても、博物館評価に関する文献や論考も数多く目にするようになってきており、博物館における当面の大きな課題として認識されている状況にあるといえよう(2)。

さて、当館においても、これまでに事業評価を意識した作業を行ってきた。当館では、昭和63年の開館以来、各年度の事業報告を「年報」という形で活字化している。その構成内容は、庶務業務と学芸業務に大別し、庶務業務では組織と職員体制、運営委員会と会議開催記録、予算および決算の推移、維持管理の業務状況、入館者や研修室利用者などを集計している。また、学芸業務では、特別展、企画展、学級講座等の開催記録、調査・研究・普及活動にかかわる活動状況、博物館資料の収集と利用についての集計を主な内容としている。本誌年報もまさに同様の構成に順じてまとめているわけである。このような年度毎による事業報告を作成することは、施設や各事業課において珍しいことではないが、当館では平成10年度の年報(平成11年刊行)以来、単なる事業報告ではなく、自己評価を含めた課題の抽出を意識した内容に転換した。すなわち、展示や学級講座について開催経過だけでなく、担当者ができる限り自己評価を加えて振り返るように努めるようにしたのである。つまり、博物館で刊行する年報、研究紀要、収蔵資

料目録などは、博物館における情報公開はもちろん、博物館評価の一翼を担っているという意識をもって進めているわけである(3)。

また、近年では、さまざまな学会誌や雑誌等で、博物館で行なわれた特別展や企画展の「展示批評」が目立ってきた。特別展や企画展は、学芸員にとって通常業務のなかではたいへん大きな負担を占めながらも、研究論文などと違い従来ほとんど実績として認められてこなかった。しかも、展示そのものを批評しようという動きがみられなかったことは、ある意味では担当学芸員の独断場であり、内容においても自己満足に陥る可能性を孕んでいた。もちろん、展示批評を行なうことには難しい一面もあるが、開かれた場で議論を尽くすことで、客観的な評価が与えられる意味は大きい。当館で開催した平成15年度の企画展も、展示批評の対象とされている(4)。

さらに、博物館の企画展示等の開催に至るプロセスを、担当者自らが積極的に公開しようとする動きもみられる。展示批評は、あくまでも結果論である。企画や準備の途上で、どのような努力や苦労があっても、それは評価として表れるものではない。その点については、担当者自身も十分承知はしているのだが、しかし、準備途上ではたいへん重要な議論や試みがなされていることも少なくないのである。そこで、その議論や試みについてありのままに記録し、あるいは自己評価を加えながら概観しようというわけである。当館でも、平成11年度から開催しているワークショップと、その集大成であるワークショップ参加者との協働作業による平成15年度企画展について、その経緯と顛末を詳細に報告している(5)。

冒頭に述べた大磯町の作成した事業評価というのは、いわば大磯町という行政組織内における事業評価といえる。資料館が大磯町という組織内の一施設であることを踏まえば、大磯町全体の中での資料館の事業評価はもちろん必要であろう。しかし、一般行政業務とは異なる資料館業務を、組織内における事業評価のなかだけで比較判断することはたいへんむずかしいように思う。その意味では、資料館では既に開かれた形で社会的評価を訴えているわけであり、そのことの方が博物館にとって意義のある評価になりうるのではないかと考えている。

さて、評価にも関わるものとして、もうひとつ大きな問題に直面している。それは、人事評価制度の導入である。人事評価というのは、業務における個人の能力・態度意欲評価について、最終的に5段階評価を出すものである。もちろん、評価を行なうにあたっての留意事項などがまとめられており、さらに各評価要素には定義と行動指標例を示しているため、これを指針として評価をしようというものである。人事評価シートを一見すると、事業評価と同様に評価表現は客観的ではある。しかし、人事評価そのものは業務に沿った、一層具体的な評価が求められることになる。各部課ごとに業務の種類や性格に違いがあるなかで、各部課から提出された人事評価を、適正に読み取ることができ

るのだろうか。特に、博物館においては、その思いがいつそうつのる。

例えば、当館では現在のところ、学芸員が庶務業務はもちろん資料館の維持管理作業全般を執務しており、加えて文化財行政業務も兼務している状況である。庶務業務ならまだしも、本来ならば文化財行政業務が博物館に設置されていること自体がおかしなことである。仮に、文化財行政業務の担当班を博物館に置いたとしても、博物館を運営する担当班とは明確に分化しなければ組織上、あるいは職務上の整合性をもたない。資料館の同じ担当者が、資料館業務と文化財行政業務を兼務していることは理解できないし、利用者にとっても、あるいは関係機関との渉外上においても大きな混乱を招いていることは事実である。

さて、業務を兼務するからには、学芸員として本来望むべき仕事量や質に影響が及ぶのは必至である。だからといって仕事量を削減するわけにはいかず、さらには質を落とさないためには、大きな負担や犠牲を払わなければならない。しかし、現行の評価方法からすれば、ミュージアムマネジメントを重視すればするほど、相対的に学芸業務の仕事量は減っているように映り、学芸業務の絶対評価も厳しくなるのが当然である。しかも、現状では業務全体のバランスを云々できるどころではないのである。必要に迫られた業務から順次こなしていかなければならない状況において、果たして各人の能力や態度意欲について適正な評価ができるのかどうか疑問と言わざるを得ない。もちろん、業務評価や人事評価というのは、評価をすることが最終目的ではない。「事務事業見直しシート」とあるように、評価はあくまでも行政機構や運営を改善し、しいては職員の意識改革に結びつけるための基礎データであろう。しかし、いやだからこそ、資料館における評価を一般行政業務と同等に判断しようとしたとき、業務の肥大化が十分に表現されない上に、全体のバランス上では学芸業務の割合が減っている部分や、学芸業務に対する厳しい評価だけに目が行ってしまうことになりかねない。結果、業務は学芸員でなくてもいいのではないかという極論が闊歩する危険性を増すことになる。

博物館における人事評価、特に学芸員に関していえば、一般行政職員のそれとはなじみにくい。しかし、それでも評価が必要ならば、ひとつひとつの評価において、明文化した根拠をあわせて提出すべきだろう。現行では、評価根

拠の提出は不要とされているが、少なくとも博物館業務の評価基準ならびに学芸員としての評価基準と、その望ましい姿についての考え方を明らかにし周知する必要がある。ちなみに、筆者も立場上、3名の館職員の評価を行なった。すべての項目について評価根拠を作成し、評価シートを記入するまでに、業務時間外を利用し約1週間かかった。評価のむずかしさは予想以上で、多くの時間を費やすこととなってしまった。

博物館は、生涯学習の現場である。最前線であり、住民や利用者と直接関わりをもっている。そこには常に住民や利用者からの眼差しがある。そして、他の博物館施設等とのネットワークがあり、同時にそれは他施設からの眼差しでもある。資料館では、開館当初から、さまざまな眼差しの中で、常に緊張感をもって業務に携わってきた。そこには、未だに立場が脆弱である学芸員という職種の地位向上と、学芸員としての責任感が働いている。だからこそ、さまざまな学会や研究会活動を通して、あるいは執筆活動などを通して博物館や学芸員としての社会的評価を意識し、常にスキルアップを目指しているのである。

今回の行政業務評価シートや人事評価シートの作成にあたっては、その検討メンバーに郷土資料館職員が名を連ねてきたことも事実である。しかし、実際に評価を行なう段階において、一般行政業務の評価基準をもって、どこまで博物館の業務評価や学芸員の人事評価ができるのか、あらためて多くの議論を尽くさなければならないと感じている。

註

- (1) 大磯町行政改革推進本部設置規則(平成8年4月1日施行)
- (2) 例えば、『博物館研究』Vol.38 No.5(財団法人日本博物館協会 2003)では、「博物館の評価」を特集している。
- (3) 佐川和裕「事例3 紀要・目録の刊行」『学芸員の仕事』神奈川県博物館協会編 2005
- (4) 大野一郎「大磯町郷土資料館「布と着物—縫う・繕う・着る・装う・楽しむ—」」『民具研究』第130号 日本民具学会 2004
- (5) 佐川和裕「衣類整理と「布と着物」展～ワークショップ参加者との協働作業を通して～」『民具マンスリー』第37巻12号 神奈川大学日本常民文化研究所 2005

草と木の調査「城山公園の植物」の活動報告

※北水 慶一

1. はじめに

大磯町郷土資料館では、平成11年度より館主催の講座として「草と木の調査」を実施している。講座を開始した趣旨については『大磯町郷土資料館年報～平成11年度～』内の研究報告に記しているが、再度、概略を述べると本講座は平成2年度から平成10年度の間に実施してきた自然観察会に替わるもので、従来の自然観察会の多くは、単日日程で進めてきた。企画立案者として観察会を繰り返す中、単日日程の講座ではその場限りで十分な理解に結びついていないと感じることが多くなり、開館10年を契機に企画内容を根本的に替えることにした。それが講座「草と木の調査」であり、特定の期間もしくは1年間継続して実施している。

講座を始めた平成11・12年度は“秋の植物”の分布について調査した。内容は初秋から晩秋に開花する植物、秋に特徴的な果実を付ける植物を15種（平成12年度は18種）抽出し、講座の参加者ととも町内を巡回調査し、町内における各植物の分布状況を調べるものであった。平成13年度からは当館のある神奈川県立大磯城山公園の花ごよみ調査を中心に同園の植物の種類や生育場所を調査している。本報告は城山公園の植物調査を始めた経緯と現在の実施内容について記すものである。調査開始から3年が経過し、貴重なデータが多数集まってきているが、具体的な調査結果の公表については本講座の参加者の意向にそった形で、報告したいと考えている。

2. 前企画「“秋の植物”の分布調査」の反省から

平成11・12年度の調査を通して感じたことは、教育普及活動事業に結果を求める調査を組み込むことの難しさであった。教育普及活動とは文字通り、“普及”、広く一般の方々にテーマに即したカリキュラムを展開し、学習内容の習得を図るものであるが、学習の場を提供するだけでなく、調査を通して資料館資料に結び付くような結果を求めることは、必ずしも“普及”と“調査”とで手法が一致しない状況が生じることもあり、難しさを感じた。例えば、調査した場所に対象とする植物がないということは調査の上では意味のあることと思われる。しかしながら、毎回どこに行っても対象とする植物が見られない状況となれば、本来の教育普及としての目的から外れるように感じる。実際の調査では参加者を数班に分け、各班ともに午前9時から正午までの3時間で4km程度歩くコースを設定したが、各班の調査コース設定にあたり、想定されるいくつかのコースを事前に歩いて廻り、観察にも調査にも適したコース取りを設定した。そのため、事前に歩く

距離が調査日当日、巡回する距離の凡そ3倍の距離なることも多々あった。資料館職員が単独で調査するのではなく、多くの住民の方々の協力を得て調査し、結果を導くということが本来の目的であったが、事前に巡回することで既に状況を把握してしまい、何故、参加者を募って調査をしているのか私自身、分からなくなることがあった。

また、講座の回数が進むにつれ、参加人数に対する調査範囲、調査を実施するペースに問題を感じるようになった。参加者は平成11年度が10人、平成12年度が6人であった。毎回、2人または3人で班を編成し、事前に設定したコースを巡回するのだが、1日に廻れるコースは参加者の出席率に影響され、1～3コース。1日あたり最長で12km程度（4km×3コース）。調査期間は9～11月で、月1回ペースの調査としているため、実質的に調査可能な範囲は36km（12km×3回）。大磯町は東西に約7.5km、南北に約2.5km、面積は17.23km²であり、36km程度の巡回調査ではごく一部分、断片的にしか確認することができなかった。また、調査結果のまとめとして、植物の種類ごとに地図に確認場所を落としていったが、9月と11月とでは種によっては開花状況にかなり差があり、同一の表に落とすことに対して問題を感じた。2年間の講座の成果として、平成13年1月7日から2月18日まで企画展『草と木の調査～秋の植物～』速報展を実施したが、調査データについては、臨時職員の方々に補助していただき、平成12年10月5日～24日（延べ9日間）の間に補足調査を行い、町全域のデータを得た次第である。結局のところ、住民参加型とは名ばかりで、意義のある調査には至らなかった。以上のようなことを反省点、改善点として踏まえ、新たな調査を進めることとした。

3. 調査の方向性について検討

まず、調査の進め方として2通りの選択肢を考えた。調査範囲を町全域とするのか、特定の場所にするのかどちらかである。町全域を範囲とするならば、調査対象とする植物を数種絞ることが必要であり、調査期間についても前回の調査から植物は季節による状態の変化があり、必ずしも容易に同定できる時期ばかりではないことを強く認識させられており、長期にわたった計画を立てず、同じような開花状況が見られる連続した数日間で記録を取るのが望ましいと考えた。

後述の特定地域の調査については、平成10年に国立科学博物館附属教育園主催の生態実習「自然観察の方法」に参加した際、講義で生物ごよみ作成について教わり、当館の教育普及活動にも内容的に活用できるのではと考えていた。生物ごよみとは、それぞれの種がいつ確認できるか、またいつ特徴的な状態が確認できるか表にまとめたものであり、植物については開花時

期と結実の時期が記されていた。単に生物ごよみを作成するが目的という訳ではなく、自然教育園を町内の公園等特定の場所に置き換えた同様のこよみがあれば、今後、学校の総合学習での活用や一般の方を対象とする植物のガイドブック、ガイドマップ等の作成に繋がるのではと考えていた。

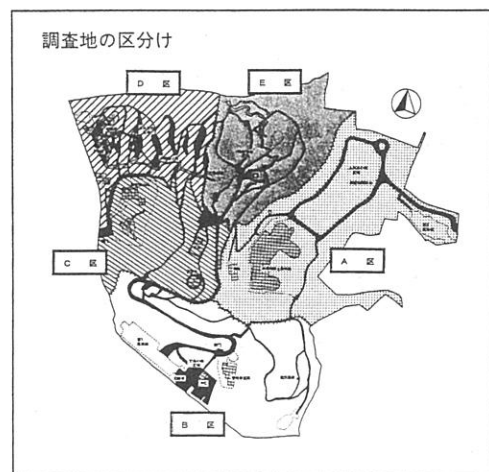
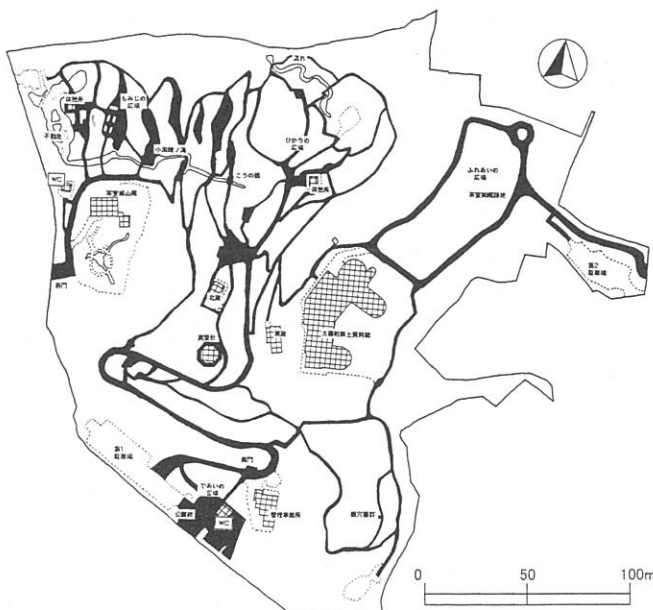
調査の具体化を考えるうえで一番の難題は、参加人数であり、平成11・12年度の参加者がそれぞれ10人、6人と当初予定していた人数30人からは大幅に下回り、今回も同様に少人数となることが予想された。したがって、10人程度の参加でも可能な内容ということが第一条件になると思った。前述の町全域における植物の分布状況調査については平日、土・日曜日を含めて数日間連続して講座を組んだ場合、参加人数が少ないことが予測された。また、参加者が集まりやすいように調査は土・日曜日のみとし、1日に巡回する距離を伸ばして実施した場合、晴天が続けば順調に進むが、雨天が続くようだと時間が空きすぎて、十分なデータを得るところまで至らないように考えられた。結局のところ、小中学校等他機関等の協力を得て、相応の人数を確保できないと広範囲の調査においては本質的に意義のある調査に結びつかないと思った。後述の特定場所に絞った調査については、仮に少人数であっても調査範囲を狭めることで調査が可能となるため、具体化を進めることにした。

4. 調査の具体化

新たな企画を検討する中で、対象とする年齢層は前企画“秋の植物”の分布調査で小中学生の参加が全くなかったこともあり、特に小中学生を中心にした内容を考えていた。講座開催の曜日は、平成14年度の完

全学校週5日制の導入により、当館に対して第2・第4土曜日の小中学生を対象とする講座の開設等の要望が各所からきていた背景から、第2・第4のいずれかの土曜日を利用して、全12回を案とした。しかしながら、想定される調査結果から勘案して月1回の調査では、天候が悪く1回の調査が中止になった場合、1月間全く記録の取れない月が出てしまう状況が考えられ、1年を通したデータ収集のためには最低でも月2回の実施が必要と思った。年間スケジュールをもとに年末年始やお盆の期間、他の事業との兼ね合い等も考慮して、講座の実施可能な第2・第4土曜日のすべて全20回を行うことにした。20回を行うということについては、当時、担当していた事務に多分に影響が出ることが予測され、また土・日曜日の職員ローテーションに影響が出るとは十分承知していたが、背景として、かつて私が担当した企画展事業において、化石、植物、鳥類、哺乳類等企画を組んできたが、内容としてはどれも種の識別を中心とするものばかりで、掘り下げた内容のものができていない。企画展を見た人たちが何かを感じて、次に何かしら繋げられるような内容のものができていないということを感じており、単に私一人の力でまとめるのではなく、多くの方々の意見や協力を得た方が充実した展示内容になるのではと思い、将来的な企画展も視野に入れて実施を進めることにした。

場所については当初、高麗山、鷹取山、城山公園の3箇所を候補とした。高麗山など自然植生の場所を調査の方が有意義な調査が展開できるのではと考えたが、集合時の駐車場の確保、調査時のトイレの確保、事故発生時の対処などを考えた時に1年という長期の活動においては、当館の位置する城山公園で活動を展開するのが、一番無難であると判断した。



県立大磯城山公園（県立大磯城山公園平面図をもとに作成）

県立大磯城山公園の広さは約7haであり、園内すべての園道を歩くと大体1時間半から2時間かかる。調査で植物を観察し、確認地点を調査表に記入しながら歩くと3時間以上かかるため、城山公園を5区域に分け、各区域3、4人で巡回し、開花している植物を確認後、植物の確認場所を地図に落としとしていく作業を進めることにした。

5. 2001年度の活動概要

3月末に配布される広報おおいそ4月号で参加者を募集した。募集の際、対象は“植物に興味のある方”とした。募集人数30人のところ16人の申し込みがあったが、小中学生の応募は無かった。参加者は年度途中で1人増え17人になった。調査は第2・第4土曜日を中心に行った。調査時間は当初の企画では午前9時から11時までの2時間としたが、2時間では全区域を廻りきれず、11時30分頃まで行うことが多かった。講座の進行としては、最初に当日、確認できそうな植物について学習会を行い、各班に分かれて調査コースを巡回。終了後、班毎に調査表をまとめていただいた。また、情報の共有を図るため、毎月、草と木の調査だよりを発行した。

調査方法に関して、年度内に意見交換を2回、アンケートを1回実施した。意見交換は第1回、第2回の講座時に行った。第1回の講座では、調査地の下見後、叩き台として考えていた調査方法について意見をいただき、効率的な調査活動ができるように検討した。参加者の方より園内各所で計測用の原点を決め、メジャーを使って原点からの距離を図った方がより正確に地

図上に確認地点を落とすことができるのではと意見をいただいた。いただいた意見を実際の調査に反映させようと考えたが、1つ1つの植物について、原点からの距離を計測しては時間が掛かりすぎるため、目測で地図に落とすことにした。第2回の意見交換では、講座当日の朝、学習会を通して観察できそうな植物の知識を深めるよりも事前に予習用の資料を送付いただければ、調査時には植物の識別が効率よく進むのではという意見をいただいた。以降の調査会においては、意見をもとに私が事前に城山公園を巡回して、開花しているものを調べ、列記したものを予習用の資料として毎回、郵送することにした。

アンケート調査(11月末実施)では、当年度の調査方法の問題点抽出や次年度の調査内容について意見を出していただいた。問題点としては、調査主体で進められており、植物の同定等の知識を深める内容が薄いこと。設定した時間が短く、また調査に時間が掛かりすぎているためゆとりを持った活動ができていないことなどがあげられた。また、要望としては、草と木の調査という講座名になっているが、草花の開花確認調査が中心となっているので、樹木についての学習の機会を設けてほしい。開始時間を30分遅らせてほしい等の意見が出た。いただいた意見を参考に1月から植物の同定に知識を増やすため、個々の植物の見分けた方を中心とする学習会を始めた。また、調査結果の情報の共有を図るため、調査終了後、各地区の状況について情報交換会を始めた。

6. 2002年度の活動概要

2001年度の参加者に対しては3月に継続受講の意思確認を行い、新規受講者の募集は3月末に配布される広報おおいそ4月号で参加を募った。継続受講者10人、新規受講者8人の計18人で2002年度の活動を開始した。年度途中で2人増え、参加者は20人になった。調査は前年度と同様に第2・第4土曜日を中心に行い、時間は要望のとおり、開始時間を30分遅らせ、毎回、時間が不足していた反省から講座を正味2時間30分に延長して9時30分から正午ということで進めた。調査の内容については、前年度と同様に城山公園の花ごよみ調査を中心に行った。前年度の途中から行った講座予習用の資料の送付、個々の植物の種同定を中心とした学習会、情報の共有を図る情報交換会は引き続き継続して行い、新しい試みとして、外部から講師を招いて公開講座を実施した。特にこの公開講座では、前年度のアンケートで意見の出た、樹木に関する知識の習得を目的として、高麗山の樹木を中心に観察会を実施した。講師は大磯町文化財専門委員で、神奈川県立生命の星・地球博物館の名誉館員である高橋秀男先生にお願いした。公開講座という形式をとり、当講座参加者以外の申し込みも受け付けたが、当日は草と木の調

草と木の調査だより

準備号

大磯町郷土資料館 2001年4月20日発行

4月28日から新しい「草と木の調査～城山公園の植物～」が始まります。この度の調査では、城山公園で見られる植物の開花時期や所在を調べ、公園の花ごよみ、植物地図を作ります。

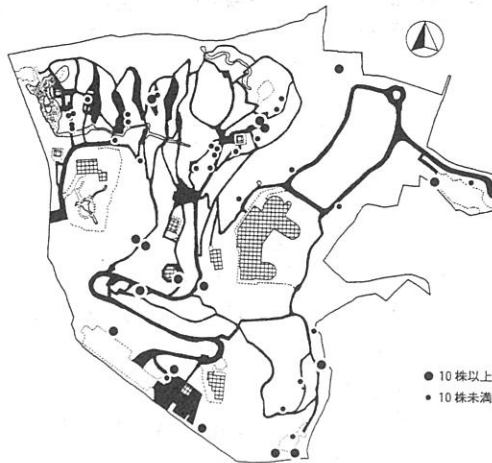
<p>はじめに</p> <p>城山公園には昔からの地域固有の植物、人為的に觀賞用として植栽された植物、どこからか紛れ込んだ植物と非常に多様といえる植物相が見られます。今回の草と木の調査では1年を通して、城山公園の樹木、野草を見ていきます。園内の植物や開花する植物の移り変わり、四季の移り変わりの観察を通して身近な自然を見つめ直す機会になればと考えております。</p>	<p>調査の進め方</p> <p>城山公園をいくつかの区域に分けます。一人が一つの区域を担当し、担当区域内にどんな花が咲いているか、調査表に記録していきます。一通り回ったあと、調査表をまとめ、情報交換会を行います。</p> <p>・調査予定日 4月28日、5月12日、5月26日、6月9日、6月23日、7月14日、8月4日、8月25日、9月8日、9月22日、10月13日、11月10日、11月24日、12月8日、1月12日、1月26日、2月9日、2月23日、3月9日、3月23日 ※ご都合に合わせて、可能な時にご参加下さい。</p>
<p>ご持参下さい</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 筆記用具 ● 色鉛筆 ● 簡単な植物図鑑(お持ちの方のみでかまいません) 	<p>4月28日のラインアップ</p> <p>ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、オオイヌフグリ、カントウタンポポ、セイヨウタンポポ、ヤマブキ、ヤエヤマキ、シロヤマブキ、ホウチャクソウ、エビネ、クリシマツツジ、クムメツツジなど</p>

みなさんの身近に咲く花や花まつわる思いを話しご投稿下さい。本誌面で紹介したいと思っております。その他、ご意見などもお待ちしております。

「草と木の調査だより ～準備号～」

オニタビラコ

〔キク科 オニタビラコ属〕



2001年度第1回調査(2001年5月12日実施) オニタビラコの集計結果

査参加者13人、それ以外の参加者14人の計27人の参加があった。調査方法に関して、前年度と同様に12月末にアンケートを実施した。回答は時間、内容共に適当というものがほとんどであった。年度の最後の講座で次年度の講座内容について意見交換会の時間を設けた。次年度以降の講座の方向性について、第2・第4土曜日すべて同じ内容で進めるのではなく、どちらか一方、知識を深めるための時間として活用してはどうか。新規受講者が植物に親しめるような内容を導入してはどうかという意見をいただいた。

7. 2003年度の活動概要

2002年度の参加者に対しては4月に継続受講の意思確認を行い、新規受講者の募集は4月末に配布される広報おおいそ5月号で参加を募った。継続受講者10人、新規受講者8人の計18人で2003年度の活動を開始した。年度途中で1人の参加があり、最終的には19人になった。調査日時は、前年度と同様の第2・第4土曜日を中心に全20回。午前9時30分から正午とした。内容については次のとおり変更した。2001年度・2002年度、進めてきた城山公園の花ごよみ調査は第4土曜日のみとし、第2土曜日はシダ植物・ドングリ・樹木の各種調査等、毎回内容を変えて行った。また、新しい試みとして、ラミネーターを使用した植物図鑑の作成を行った。第17回の講座時に次年度以降の方向性について話し合った。今後の調査のまとめ方・調査結果の公表の仕方について意見交換し、i) 調査報告書の作成、ii) 園内樹木の名札付け、iii) 城山公園 四季の植物 ホームページの開設、iv) 城山公園のガイドブックの作成等4点について進めてはと意見があがった。

8. 今後の活動とまとめ

当面、毎回行っている城山公園の花ごよみ調査とともに先に記したようなことを並行して進めることにした。3年間継続して城山公園の開花状況を調査してお

り、長期参加されている方にとっては場所を移して調査を進めた方が新鮮味もあり、より楽しめるかと思われるが、最終的な成果品の完成までは継続して城山公園の調査を進めたいと考えている。毎年、新たに参加される方にとっては、城山公園の身近な自然は親しみやすく、また、植物の種類も豊富で植物の知識を増やすには格好の場所と意見をいただいている。本講座は単に調査目的に行っている訳ではなく、教育普及的な意味も含まれており、当館の立地を利用し、城山公園をベースとした調査・普及活動を行うことは有意義なことではないかと考える。

講座を開始してから3年が経ち、充実した結果が集まってきた。講座を始めたころは、私自身、植物に関して知識が薄く、時に参加者の方の支えにより、継続できたということもある。特に本講座にご参加の石井竹夫さんには、毎回、「県立大磯城山公園薬用植物花ごよみ」等の資料を作成していただき、調査を進めるうえで非常に参考になった。同資料は園内で撮影された植物の写真とともに個々の植物の薬効等トピックスが記載されており、単に植物同定の資料に限らず、植物の特徴付けという点でもすぐれたものであった。同資料の作成のため年間に2001年度は62回、2002年度は62回、2003年度は47回来園され、調査されている。ほぼ、土・日曜日は毎回来園されており、企画立案者としては頭の下がる思いである。また、度々城山公園に来て、開花植物を撮影されるのも大変かと思うが、個々の植物の解説を継続してご執筆されており、本調査に対する熱意を感じるとともに本企画に対してご賛同・ご協力いただいたことに深く感謝申し上げる次第である。石井さんに限らず、参加されている多くの方の知識の提供や活動に対するご協力によって、本講座が成り立っていることを再認識しつつ、今後も地道な活動を進めていきたいと思っている。

参考文献

- 矢野亮ほか(1981)『自然保護教育のためのカリキュラム作成に関する研究～自然教育園をフィールドにして～』国立科学博物館付属自然教育園。
- 石井竹夫(2001)『県立大磯城山公園植物目録』
- 石井竹夫(2001～2002)『県立大磯城山公園薬用植物花ごよみ No. 1～No. 21』
- 石井竹夫(2002～2003)『続・県立大磯城山公園薬用植物花ごよみ No. 1～No. 20』
- 石井竹夫(2003～2004)『大磯町の植物 No. 1～No. 15』
- 北水慶一(2001)「草と木の調査」概要報告, 『年報—平成11年度—』大磯町郷土資料館。
- 北水慶一(2001～2004)『草と木の調査だより 準備号, 第1号～第10・11号, 2002年度号, No. 03-01～03-11』大磯町郷土資料館。

草と木の調査「城山公園の植物」 活動の一覧

2001 年度

第 1 回(通第1回)

- 期 日 4月28日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 12人
- 活動内容
 - 1. 自己紹介
 - 2. ガイダンス
 - (1) 調査の趣旨 (2) 調査の方法
 - 3. 調査地下見
 - 4. 調査方法に関する意見交換
(調査方法の問題点抽出、検討)

第 2 回(通第2回)

- 期 日 5月12日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 9人
- 活動内容
 - 1. 学習会1(城山公園の植物目録の解説/石井竹夫氏より)
 - 2. 学習会2(5月中旬に開花する植物の見分け方)
 - 3. 第1回城山公園花ごよみ調査
 - 4. 調査方法に関する意見交換
(調査方法の問題点抽出、検討)

第 3 回(通第3回)

- 期 日 5月26日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 12人
- 活動内容
 - 1. 自己紹介
 - 2. 第2回城山公園花ごよみ調査
 - 3. 調査表のまとめ

第 4 回(通第4回)

- 期 日 6月9日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 10人
- 活動内容
 - 1. 学習会(6月上旬に開花する植物の見分け方)
 - 2. 第3回城山公園花ごよみ調査
 - 3. 調査表のまとめ

第 5 回(通第5回)

- 期 日 6月23日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 12人
- 活動内容
 - 1. 第1回～第3回城山公園花ごよみ調査結果報告

- 2. 第4回城山公園花ごよみ調査
- 3. 調査表のまとめ

第 6 回(通第6回)

- 期 日 7月14日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 8人
- 活動内容
 - 1. 城山公園の植物の近況について
 - 2. 第5回城山公園花ごよみ調査
 - 3. 調査表のまとめ

第 7 回(通第7回)

- 期 日 8月4日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 9人
- 活動内容
 - 1. 城山公園の植物の近況について
 - 2. 第6回城山公園花ごよみ調査
 - 3. 調査表のまとめ

第 8 回(通第8回)

- 期 日 8月25日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 8人
- 活動内容
 - 1. 城山公園の植物の近況について
 - 2. 第7回城山公園花ごよみ調査
 - 3. 調査表のまとめ

第 9 回(通第9回)

- 期 日 9月8日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 8人
- 活動内容
 - 1. 城山公園の植物の近況について
 - 2. 第8回城山公園花ごよみ調査
 - 3. 調査表のまとめ

第 10 回(通第10回)

- 期 日 9月22日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 9人
- 活動内容
 - 1. 城山公園の植物の近況について
 - 2. サガミランの観察会
 - 3. 第9回城山公園花ごよみ調査
 - 4. 調査表のまとめ

第 11 回(通第 11 回)

- 期 日 10月13日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 7人
- 活動内容
 - 1. 城山公園の植物の近況について
 - 2. サガミランの観察
 - 3. 第10回城山公園花ごよみ調査
 - 4. 調査表のまとめ

第 12 回(通第 12 回)

- 期 日 11月10日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室
- 参加人数 4人
- 活動内容
 - 1. 作業説明
 - 2. 第1回～第10回の調査表のまとめ

第 13 回(通第 13 回)

- 期 日 11月24日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 9人
- 活動内容
 - 1. 城山公園の植物の近況について
 - 2. 第11回城山公園花ごよみ調査
 - 3. 調査表のまとめ

第 14 回(通第 14 回)

- 期 日 12月8日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 7人
- 活動内容
 - 1. 城山公園の植物の近況について
 - 2. 第12回城山公園花ごよみ調査
 - 3. 調査表のまとめ

第 15 回(通第 15 回)

- 期 日 1月12日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 9人
- 活動内容
 - 1. アンケートの集計について
 - 2. 講座の進め方の一部変更について検討会
 - 3. 学習会(ヤブタビラコ属とオニタビラコ属の見分け方)
 - 4. 第13回城山公園花ごよみ調査
 - 5. 調査表のまとめ
 - 6. 情報交換会

第 16 回(通第 16 回)

- 期 日 1月26日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 7人

○ 活動内容

- 1. 学習会(ハハコグサ属の見分け方)
- 2. チチコグサモドキ、ウラジロチチコグサの観察
- 3. 第14回城山公園花ごよみ調査
- 4. 調査表のまとめ
- 5. 情報交換会

第 17 回(通第 17 回)

- 期 日 2月9日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 8人
- 活動内容
 - 1. 学習会1(センダングサ属の見分け方)
 - 2. 学習会2(サザンカ、ヤブツバキ、カンツバキの見分け方)
 - 3. 第15回城山公園花ごよみ調査
 - 4. 調査表のまとめ
 - 5. 情報交換会

第 18 回(通第 18 回)

- 期 日 2月23日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 7人
- 活動内容
 - 1. 学習会1(ハコベの見分け方)
 - 2. 学習会2(ミミナグサ属の見分け方)
 - 3. 第16回城山公園花ごよみ調査
 - 4. 調査表のまとめ
 - 5. 情報交換会

第 19 回(通第 19 回)

- 期 日 3月9日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 7人
- 活動内容
 - 1. 学習会(ミミナグサ属の見分け方)
 - 2. 第17回城山公園花ごよみ調査
 - 3. 調査表のまとめ
 - 4. 情報交換会



〔2001年度第1回〕ガイダンスの様子(2001年4月28日撮影)

第 20 回(通第 20 回)

- 期 日 3月23日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 8人
- 活動内容

1. 第18回城山公園花ごよみ調査
2. 調査表のまとめ
3. 情報交換会
4. 平成13年度講座のまとめ

2002 年度

第 1 回(通第 21 回)

- 期 日 4月13日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 13人
- 活動内容

1. 館長あいさつ
2. 自己紹介
3. ガイダンス
- (1) 調査の目的 (2) 調査の方法
4. 第1回城山公園花ごよみ調査
5. 調査表のまとめ
6. 情報交換会

第 2 回(通第 22 回)

- 期 日 4月27日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 16人
- 活動内容

1. 自己紹介
2. 平成13年度調査の結果報告
3. 第2回城山公園花ごよみ調査
4. 調査表のまとめ
5. 情報交換会

第 3 回(通第 23 回)

- 期 日 5月11日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 14人
- 活動内容

1. 学習会(タツナミソウ属の見分け方)
2. 第3回城山公園花ごよみ調査
3. 調査表のまとめ
4. 情報交換会

第 4 回(通第 24 回)

- 期 日 5月25日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 10人

○ 活動内容

1. 学習会(マツヨイグサ属の見分け方)
2. 第4回城山公園花ごよみ調査
3. 調査表のまとめ
4. 情報交換会

第 5 回(通第 25 回)

- 期 日 6月8日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 8人
- 活動内容

1. 学習会(ハエドクソウ属の見分け方)
2. 第5回城山公園花ごよみ調査
3. 調査表のまとめ
4. 情報交換会

第 6 回(通第 26 回)

- 期 日 6月22日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 10人
- 活動内容

1. 学習会(ヤマノイモ属の見分け方)
2. 第6回城山公園花ごよみ調査
3. 調査表のまとめ
4. 情報交換会
5. ヒメヤブランの観察

第 7 回(通第 27 回)

- 期 日 7月6日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 10人
- 活動内容

1. 観察会(マヤランの観察)
2. 第7回城山公園花ごよみ調査
3. 調査表のまとめ
4. 情報交換会

第 8 回(通第 28 回)

- 期 日 8月3日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 9人
- 活動内容

1. 学習会(サガミランの保護について)
2. 第8回城山公園花ごよみ調査
3. 調査表のまとめ
4. 情報交換会

第 9 回(通第 29 回)

- 期 日 8月24日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 9人
- 活動内容

1. 学習会 (エノコログサ属の見分け方)
2. 第9回城山公園花ごよみ調査
3. 調査表のまとめ
4. 情報交換会

第10回(通第30回)

- 期 日 9月14日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 5人
- 活動内容
 1. 学習会 (イノコヅチ属の見分け方)
 2. 第10回城山公園花ごよみ調査
 3. 調査表のまとめ
 4. 情報交換会

第11回(通第31回)

- 期 日 9月28日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室
- 参加人数 5人
- 活動内容
 1. 学習会 (チヂミザサ属の見分け方)
 2. 植物腊葉標本の作成
 3. 第1回～第10回花ごよみ調査の集計

第12回(通第32回)

- 期 日 10月5日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 7人
- 活動内容
 1. 学習会 (カタバミ属の見分け方)
 2. 第11回城山公園花ごよみ調査
 3. 調査表のまとめ
 4. 情報交換会

第13回【特別公開講座】(通第33回)

- 期 日 11月2日(土)
- 場 所 生涯学習館、高麗山
- 参加人数 13人(総参加人数27人)
- 活動内容
 1. 講師紹介(講師:高橋秀男氏)
 2. 「葉による樹木の見分け方」解説
 3. 高麗山の樹木観察

第14回(通第34回)

- 期 日 11月16日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 6人
- 活動内容
 1. 高麗山の樹木観察の復習
 2. 第12回城山公園花ごよみ調査
 3. 調査表のまとめ
 4. 情報交換会

第15回(通第35回)

- 期 日 12月14日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 8人
- 活動内容
 1. 観察会(ヒノキ属とアスナロ属の見分け方)
 2. ミニ展示「収蔵昆虫標本展」見学
 3. 第13回城山公園花ごよみ調査
 4. 調査表のまとめ
 5. 情報交換会

第16回(通第36回)

- 期 日 1月18日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 9人
- 活動内容
 1. 城山公園主要樹木目録更新(ひかりの広場)
 2. 調査表のまとめ
 3. 情報交換会

第17回(通第37回)

- 期 日 2月8日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 5人
- 活動内容
 1. 城山公園主要樹木目録更新(郷土資料館周辺)
 2. 第14回城山公園花ごよみ調査
 3. 調査表のまとめ
 4. 情報交換会

第18回(通第38回)

- 期 日 2月22日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 6人
- 活動内容
 1. 学習会(平成14年度全種の記録について)
 2. 第15回城山公園花ごよみ調査
 3. 調査表のまとめ
 4. 情報交換会



〔2002年度第6回〕ヒメヤブランの観察(2002年6月22日撮影)

第 19 回(通第 39 回)

- 期 日 3月8日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 6人
- 活動内容

1. 第16回城山公園花ごよみ調査
2. 調査表のまとめ
3. 情報交換会
4. フクジュソウ、ヒイラギナンテンの実験

第 20 回(通第 40 回)

- 期 日 3月22日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 8人
- 活動内容

1. 第17回城山公園花ごよみ調査
2. 調査表のまとめ
3. 情報交換会
4. 平成14年度のまとめ
5. ミーティング(平成15年度の講座について)

2003 年度

第 1 回(通第 41 回)

- 期 日 4月12日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 6人
- 活動内容

1. 平成14年度調査の結果報告
2. 第1回城山公園花ごよみ調査
3. 調査表のまとめ
4. 情報交換会

第 2 回(通第 42 回)

- 期 日 4月26日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 5人
- 活動内容

1. 第2回城山公園花ごよみ調査
2. 調査表のまとめ
3. 情報交換会
4. 植物研究史について講話

第 3 回(通第 43 回)

- 期 日 5月24日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 14人
- 活動内容

1. 自己紹介
2. ガイダンス
 - (1) 調査の目的
 - (2) 調査の方法

3. 第3回城山公園花ごよみ調査
4. 調査表のまとめ
5. 情報交換会

第 4 回(通第 44 回)

- 期 日 6月14日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 12人
- 活動内容

1. 落ち葉の採集
2. 名前しらべ
3. キャプションの作成
4. 押し葉標本の作成

第 5 回(通第 45 回)

- 期 日 6月28日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 10人
- 活動内容

1. 第4回城山公園花ごよみ調査
2. 調査表のまとめ
3. 情報交換会

第 6 回(通第 46 回)

- 期 日 7月12日(土)
- 場 所 生涯学習館、高麗山
- 参加人数 13人
- 活動内容

1. 講師紹介(講師:渡辺良子氏)
2. シダ植物について講話
3. 高麗山の植物観察

第 7 回(通第 47 回)

- 期 日 7月26日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 9人
- 活動内容

1. 第5回城山公園花ごよみ調査
2. 調査表のまとめ
3. 情報交換

第 8 回(通第 48 回)

- 期 日 8月9日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室
- 参加人数 8人
- 活動内容

1. シダ植物の名前しらべ

第 9 回(通第 49 回)

- 期 日 8月23日(土)
- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
- 参加人数 8人

○ 活動内容

1. 第6回城山公園花ごよみ調査
2. 調査表のまとめ
3. 情報交換会

第10回(通第50回)

- 期 日 9月13日(土)
臨時休講

第11回(通第51回)

- 期 日 9月27日(土)
○ 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
○ 参加人数 8人
○ 活動内容
1. 第7回城山公園花ごよみ調査
2. 調査表のまとめ
3. 情報交換会

第12回(通第52回)

- 期 日 10月11日(土)
○ 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
○ 参加人数 9人
○ 活動内容
1. シダ植物検索図の作成
2. 城山公園のシダ植物調査

第13回(通第53回)

- 期 日 11月8日(土)
○ 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
○ 参加人数 9人
○ 活動内容
1. ドングリの説明(講師:石井竹夫氏)
2. ドングリ調査

第14回(通第54回)

- 期 日 11月22日(土)
○ 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
○ 参加人数 7人
○ 活動内容
1. 第8回城山公園花ごよみ調査
2. 調査表のまとめ
3. 情報交換会

第15回(通第55回)

- 期 日 12月13日(土)
○ 場 所 郷土資料館研修室
○ 参加人数 11人
○ 活動内容
1. わたしの樹木観察図鑑作成
ラミネート・冊子化

第16回(通第56回)

- 期 日 1月24日(土)

- 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
○ 参加人数 10人
○ 活動内容
1. 第9回城山公園花ごよみ調査
2. 調査表のまとめ
3. 情報交換会

第17回(通第57回)

- 期 日 2月7日(土)
○ 場 所 郷土資料館研修室
○ 参加人数 8人
○ 活動内容
1. 城山公園ガイドブック作成にあたってのミーティング
2. 本講座の今後の展開についてミーティング

第18回(通第58回)

- 期 日 2月28日(土)
○ 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
○ 参加人数 8人
○ 活動内容
1. 第10回城山公園花ごよみ調査
2. 調査表のまとめ
3. 情報交換会

第19回(通第59回)

- 期 日 3月13日(土)
○ 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
○ 参加人数 10人
○ 活動内容
1. 城山公園の樹木ネームプレート調査
2. 情報交換会

第20回(通第60回)

- 期 日 3月27日(土)
○ 場 所 郷土資料館研修室、城山公園
○ 参加人数 8人
○ 活動内容
1. 第11回城山公園花ごよみ調査
2. 調査表のまとめ
3. 情報交換会



[2003年度第20回] ミーティングの様子(2004年3月20日撮影)

年 報
平成 15 年度

◇ 平成 17 年 3 月 30 日発行

◇ 編集・発行

大磯町郷土資料館

〒255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1

TEL 0463 (61) 4700

FAX 0463 (61) 4660